

三菱電機 エアコン  
別売部品  
ベースヒータ用リレーボックス  
形名  
PAC-KS20KTT

ベースヒータ  
形名  
PAC-KS25BH  
PAC-KS26BH  
PAC-KS23BH

## 据付・取扱説明書

### もくじ

安全のために必ず守ること	2
1. 部品一覧	5
2. 適用機種について	7
3. 据付準備	7
4. 据付作業	9
5. ベースヒータの取付け	10
6. ベースヒータの配線作業	31
7. リレーボックス (PAC-KS20KTT) の配線作業	40
8. 再組立	46
9. 動作確認	46

※本別売部品を取付けた場合、圧力計 (PAC-KS65PG) は取付け出来ません。また、積算計が取付けられている場合は本別売部品を取付け出来ません。

- このたびは三菱電機製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
- この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この据付・取扱説明書を必ずお読みください。
- ご使用前に、この据付・取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。この据付・取扱説明書は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管し、必要なときお読みください。
- 「据付・取扱説明書」は大切に保管してください。
- お客様ご自身では、取付けないでください。(安全や機能の確保ができません。)
- この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。  
This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.

# 安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り付けてください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。



## 警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度



## 注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- 図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(接触禁止)



(水ぬれ禁止)



(ぬれ手禁止)



(一般注意)



(発火注意)



(感電注意)



(高温注意)



(一般指示)



(アース線を必ず接続せよ)

- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

電気配線工事は「第一種電気工事士」の資格のある者が行うこと。

## 一般事項

### 警告

#### 特殊環境では、使用しないこと。

- 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食によるけが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

#### 改造はしないこと。

- 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

#### 電気部品に水をかけないこと。

- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

#### ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

#### 掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。

- けが・感電のおそれあり。
- ファン・回転機器により、けがのおそれあり。



感電注意

#### 運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

- 冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。



やけど注意

#### 運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れないこと。

- 火傷のおそれあり。



やけど注意

#### 据付・点検・修理をする場合、周囲の安全を確認すること。(子どもを近づけないこと)

- 工具などが落下した場合、けがのおそれあり。



指示を実行

ヒューズ交換の場合、指定容量のヒューズを使用すること。

- ◆ 指定容量外のヒューズ・針金・銅線を使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。



指示を実行

異常時（こげ臭いなど）や不具合が発生した場合、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- ◆ お買い上げの販売店・お客様相談窓口にご連絡すること。
- ◆ 異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

端子箱や制御箱のカバーまたはパネルを取り付けること。

- ◆ ほこり・水による感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

## ⚠ 注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- ◆ 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



接触禁止

部品端面に触れないこと。

- ◆ けが・感電・故障のおそれあり。



接触禁止

保護具を身に付けて作業すること。

- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



けが注意

作業するときは保護具を身につけること。

- ◆ けがのおそれあり。



けが注意

## 据付工事をするときに

### ⚠ 警告

梱包材を処理すること。

- ◆ 梱包材で遊んだ場合、窒息事故のおそれあり。
- ◆ 破棄すること。



指示を実行

付属品の装着や取り外しを行うこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒が漏れ、酸素欠乏・発煙・発火のおそれあり。



指示を実行

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って据付工事を行うこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

### ⚠ 注意

配管・配線取出口の開口部は、塞ぐこと。

- ◆ 小動物・雪・雨水が内部に入り、機器が損傷・故障すると、漏電・感電のおそれあり。



感電注意

## 電気工事をするときに

### ⚠ 警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

配線端子のネジは規定のトルクで締めること。

- ◆ ネジ緩み・接触不良により発煙・発火・火災のおそれあり。



電気工事は第一種電気工事士の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



D種接地工事（アース工事）は第一種電気工事士の資格のある電気事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

- ◆ 感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース接続

## ⚠ 注意

配線が冷媒配管・部品端面に触れないこと。

- ◆ 配線が接触した場合、漏電・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



## 移設・修理をするときに

### ⚠ 警告

移設・修理をする場合、販売店または専門業者に依頼すること。分解・改造はしないこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



雨天の場合、サービスはしないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



修理をした場合、部品を元通り取り付け

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



# 1. 部品一覧

取付部品はそれぞれ以下の部品で構成されています。

## 【PAC-KS20KTT(リレーボックス)】

品名	据付・取扱説明書	機種早見表
図		
個数	1	1

品名	リレーボックス	(E) アタッチメント
図		
個数	1	1

リレーボックス付属品組立				
品名	(A) ケーブルストラップ	(B) M5ネジ	(C) 結束バンド(黒,L=100)	(D) シール材(80X40)
図				
個数	1	8(2個予備)	5(1個予備)	1
品名	(E) ハイカバー(内径φ20)	(G) 緩衝材(175X240)	(H) 結束バンド(黒,L=380)	
図				
個数	1	2	4(2個予備)	

## 【ベースヒータ】

取付部品はそれぞれ以下の部品で構成されています。

- ※ 室外機の形名によって、適切なベースヒータ固定金具を使用ください。
- 使用するベースヒータ固定金具については、別紙：機種早見表と本紙3.据付準備に記載されている表を参照ください。

## <PAC-KS25BH>

品名	ベースヒータ
図	
個数	1









ベースヒータ固定金具(付属品組立)				
品名	①	②	③	④
	-	S2	S3	S4
図				
個数	1	1	1	1








ベースヒータ付属品組立				
品名	M5ネジ	結束バンド(黒)	ハイカバー(内径φ23)	ハイカバー(内径φ29)
図				
個数	6(2個予備)	5	1	1

品名	据付・取扱説明書
図	
個数	1

## <PAC-KS26BH>













品名	ベースヒータ (ユニット左側)	ベースヒータ (ユニット右側)
図		
個数	1	1

ベースヒータ固定金具(付属品組立)						
品名	① -	② L2	③ L3	④ L5	⑤ L6	⑥ L7
図						
個数	1	1	1	1	1	1
品名	⑦ L8	⑧ -				
図						
個数	1	1				

ベースヒータ付属品組立						
品名	ケーブルストラップ	M5ネジ	結束バンド(黒)	パイプカパー(内径φ13)	パイプカパー(内径φ23)	パイプカパー(内径φ29)
図						
個数	1	8(2個予備)	5	1	1	1
品名	据付・取扱説明書					
図						
個数	1					

## <PAC-KS23BH>

品名	ベースヒータ
図	
個数	2

ベースヒータ固定金具(付属品組立)						
品名	① XL1	② XL2	③ XL3-Y	④ XL3-R2	⑤ XL4	⑥ XL5
図						
個数	1	1	1	-	1	1
品名	⑦ XL6	⑧ XL7	⑨ XL8	⑩ -	⑪ -	⑫ -
図						
個数	1	1	1	3	1	1

ベースヒータ付属品組立						
品名	ケーブルストラップ	M5ネジ	結束バンド(黒)	パイプカパー(内径φ23)	パイプカパー(内径φ29)	据付・取扱説明書
図						
個数	2	12(2個予備)	5	1	1	1

## 2.適用機種について

別紙で添付されている「機種早見表」を参照し、室外機のタイプを確認ください。

## 3.据付準備

- ※1. ベースヒータとリレーボックスは、販社もしくは指定業者による工事をお願いします。
- ※2. ベースヒータの取付けは、各モジュール・機種形名によって異なります。  
機種早見表で確認されたタイプと下表より、必要な固定金具を選定ください。

### <PAC-KS25BH> : [S\_A type]

#### ベースヒータ固定金具一覧

機種 タイプ	ベースヒータ固定金具			
	①	②	③	④
S_A	1	1	1	1

※数字は必要個数です

#### ベースヒータの仕様

出力	[W]	113
	[W/m]	82
電源電圧	[V]	200
ヒータ長	[mm]	1378
ヒータ径	[mm]	φ8

### <PAC-KS26BH> : [L\_A type]

#### ベースヒータ固定金具一覧

機種 タイプ	アキュムレータ仕様			ベースヒータ固定金具							配線用 固定金具
	縦置き	横置き		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
		熱交換器 48段	熱交換器 60段以上								
L_A	-	-	●	1	1	1	1	1	-	-	1
	-	●	-	1	1	1	1	1	-	1	1
	●	-	-	1	1	1	1	1	1	-	1

※数字は必要個数です

#### ベースヒータの仕様

出力	[W]	150
	[W/m]	78.5
電源電圧	[V]	200
ヒータ長	[mm]	950+964
ヒータ径	[mm]	φ8

### <PAC-KS23BH> : [XL\_A type]

#### ベースヒータ固定金具一覧

機種 タイプ	形名	ベースヒータ固定金具										配線用固定金具	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
XL_A	PUHY	1	1	1	-	1	1	1	1	1	3	1	1
	PURY	1	1	-	1	1	1	1	1	1	3	1	1

※数字は必要個数です

#### ベースヒータの仕様

出力	[W]	286
	[W/m]	84
電源電圧	[V]	200
ヒータ長	[mm]	1709×2
ヒータ径	[mm]	φ8

## 【取付け工具について】

- ・ ベースヒータ及びリレーボックス据付のため、次の工具が必要となります。  
これらについては、現地にて準備または手配願います。

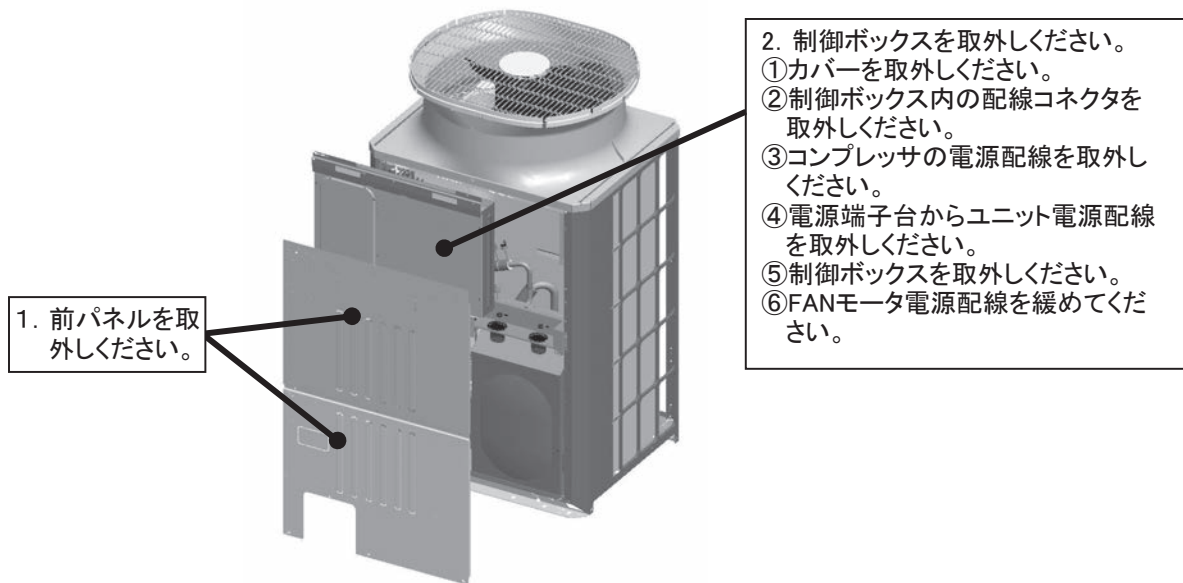
図	工具	用途
	写真上:ドライバ (40 cm以上, 先端がマグネットタイプのもの)	・ヒータ固定用金具取付けのため ・ACCのネジを取り外すため
	写真下:ドライバ (先端がマグネットタイプのもの)	・室外機のパネルを取外すため
	写真右:スパナ 写真左:ラチェット(M5)	・ヒータ固定用金具取付けのため ・ACCのネジを取外すため
	寸切りボルト (60cm以上,M5)	・ヒータ固定用金具取付けのため (先端が最低20~30mmネジ切りされていること)
	ニッパー	・結束バンド切断のため
	テスタ	・ヒータの動作確認に使用
	保護具	・フィン、高熱配管などと直接接触防止のため
	ヘルメット	・FANモータなどから頭部を保護するため
	ライト(ヘッドライト含む)	・ヒータ固定用金具据付けで据付部が暗く、見えづらい時に使用



## 4. 据付作業

- ・室外ユニット本体の主電源が、OFFであることを必ず確認してください。
- ・ベースヒータ取付のため、多くのネジを取外します。紛失しないようにしてください。
- ・ベースは、ホコリ、ゴミなどの除去を充分に行ってください。

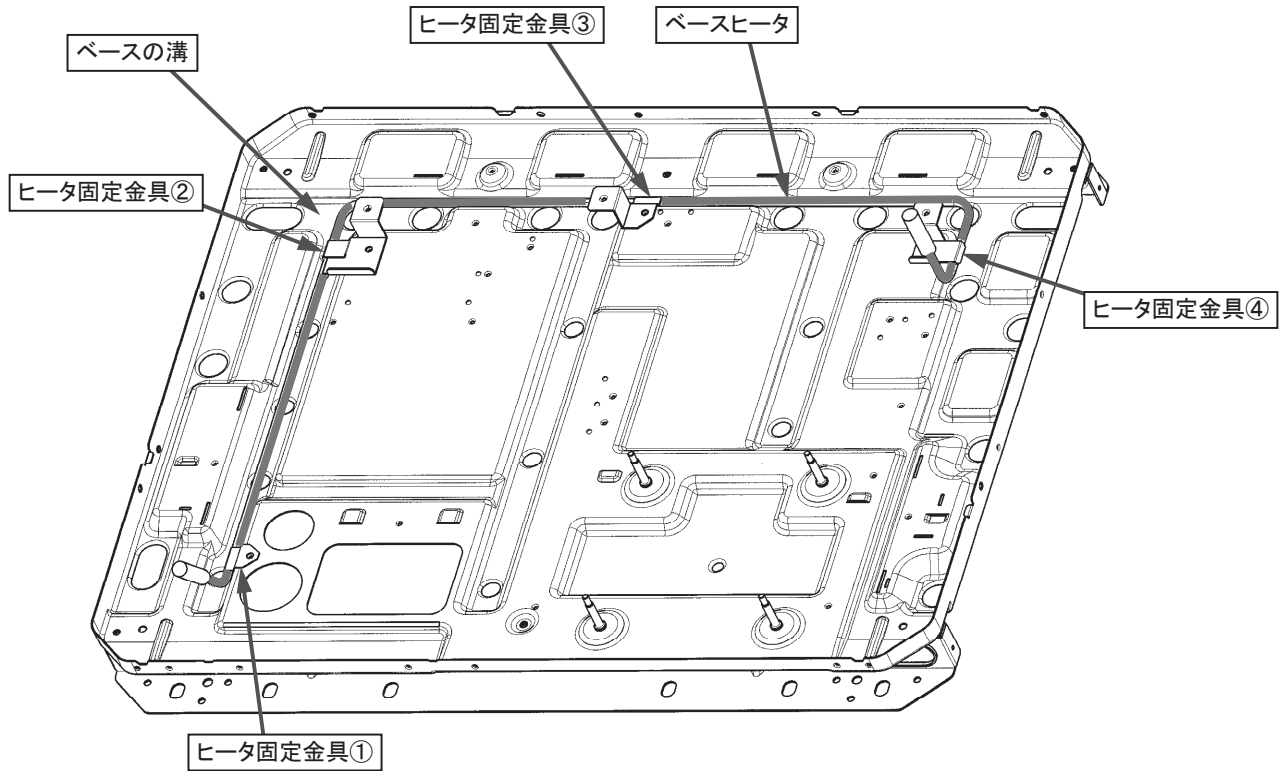
### ● 室外ユニット前パネルと制御ボックス取外し



## 5.ベースヒータの取付け

<PAC-KS25BH> :[S\_A type]

ベースヒータは、ユニット底面のベースの溝に沿わせて取付けます。



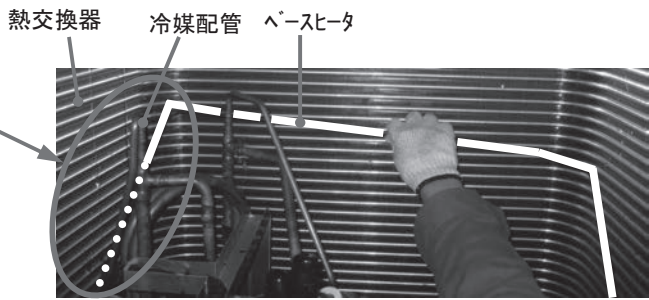
※)図はベース板金上の部品を省略しております。

- 下記(5)-1と(5)-2の作業手順に従って、ベースヒータをユニット内に取付けます。

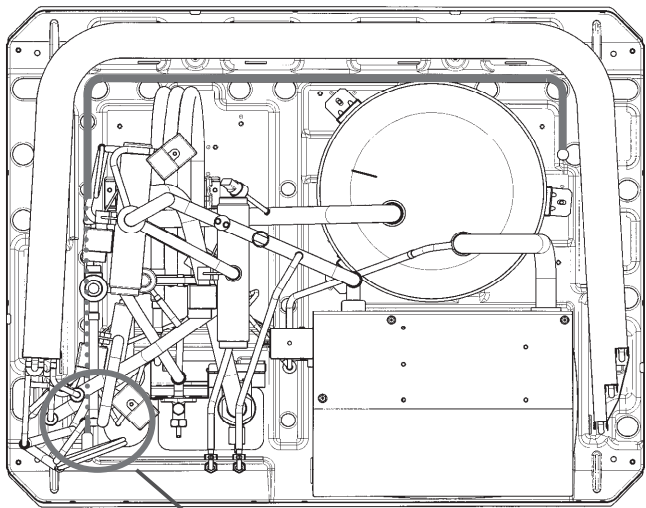
注: 怪我の危険性を減らすために、ベースヒータを設置するとき、保護具着用ください。

(5)-1 ベースヒータを室外機のベースに設置します。

ベースヒータの左側(ベースヒータの曲げの長い方)から先にユニットに入れ、熱交換器と配管の間隙を通してベースまで下ろします。  
 ベースヒータの左側配線を配管の下にくぐらせ手前まで引き出します。  
 次にベースヒータの先端を配管の下にくぐらせて、手前まで引き出し、ベースに設置します。



ベースヒータ挿入状態(ヒータ固定金具取付け前)



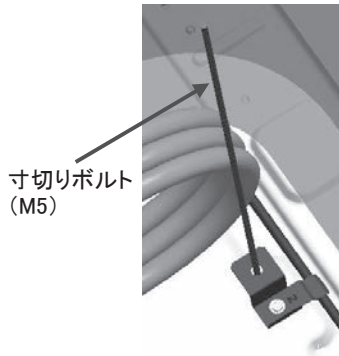
ベースヒータが他の配管と接触しないよう、ベースの溝に沿わせて置きます。

ベースの溝

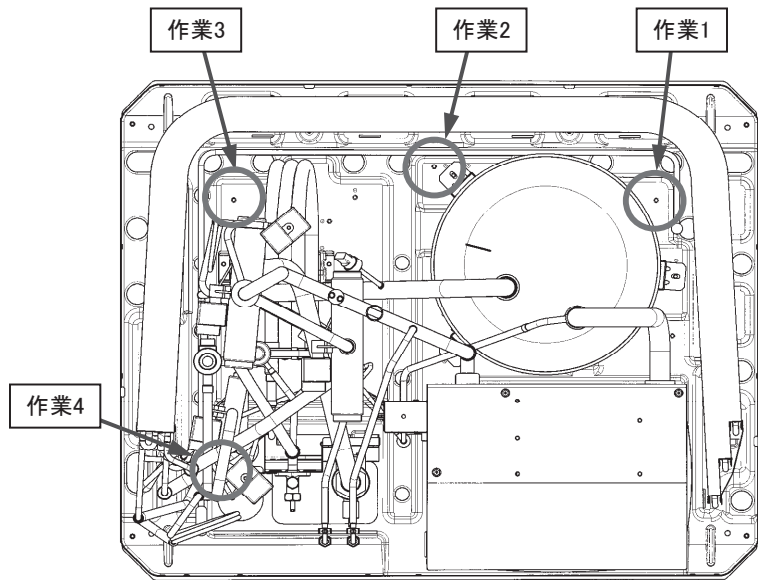
(5)-2 ヒータ固定金具の取付け

※ヒータ固定金具②～④取付けの際には、寸切りボルト(M5)を使用すると取付け易くなります。  
作業手順は下記の通りです。

- 作業1.ヒータ固定金具④の取付け
- 作業2.ヒータ固定金具③の取付け
- 作業3.ヒータ固定金具②の取付け
- 作業4.ヒータ固定金具①の取付け

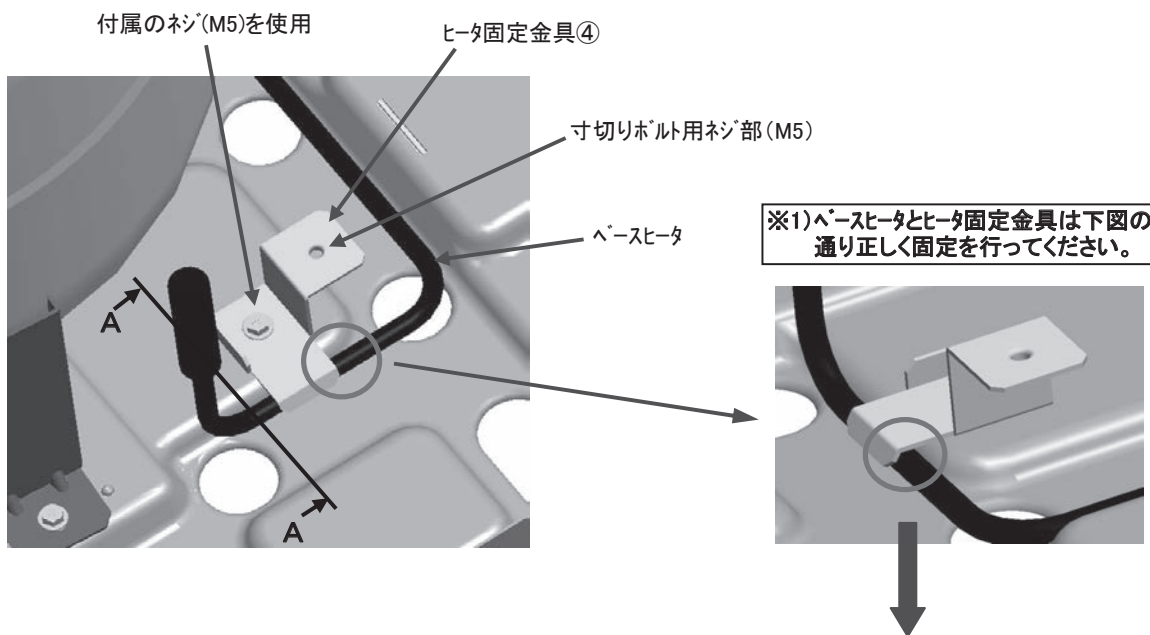


寸切りボルト (M5)

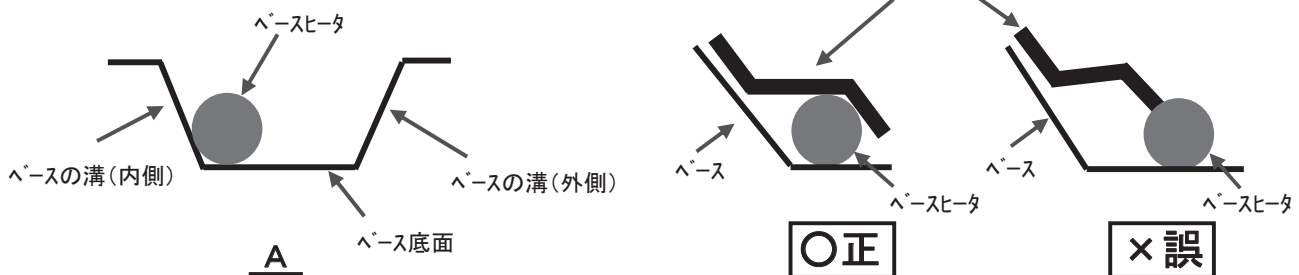


＜寸切りボルト(M5)使用例＞  
※寸切りボルトは使用後取外してください。

作業1.ヒータ固定金具④の取付け

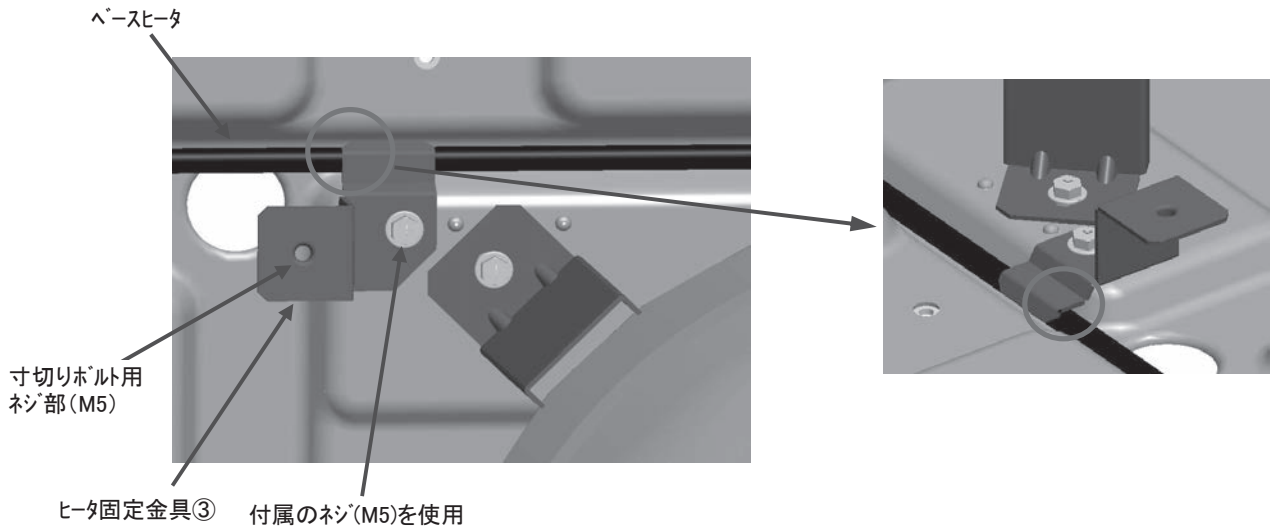


※2)ベース底面とベースヒータは、必ず接触するように固定して下さい。

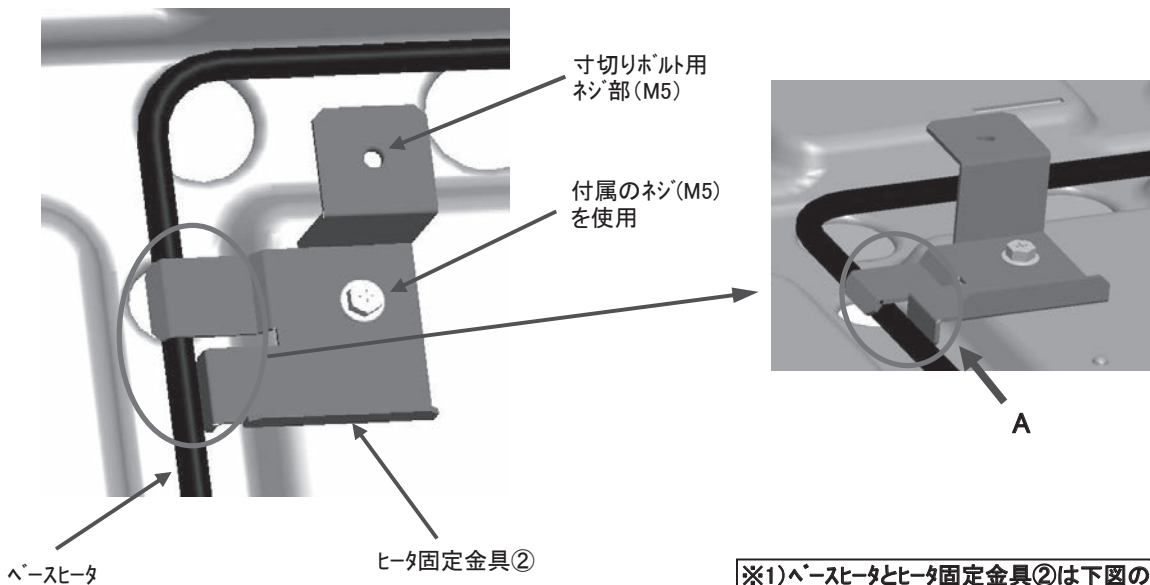


作業2.ヒータ固定金具③の取付け

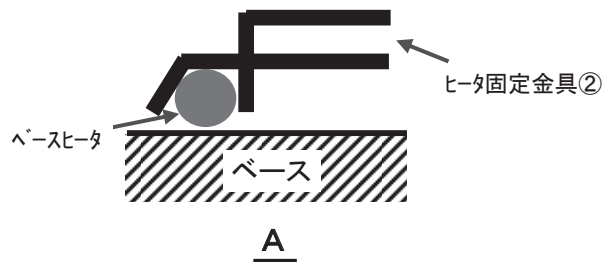
※1)ベースヒータとヒータ固定金具は  
正しく固定を行ってください。  
<詳細は、『作業1※1,2』を参照のこと>



作業3.ヒータ固定金具②の取付け

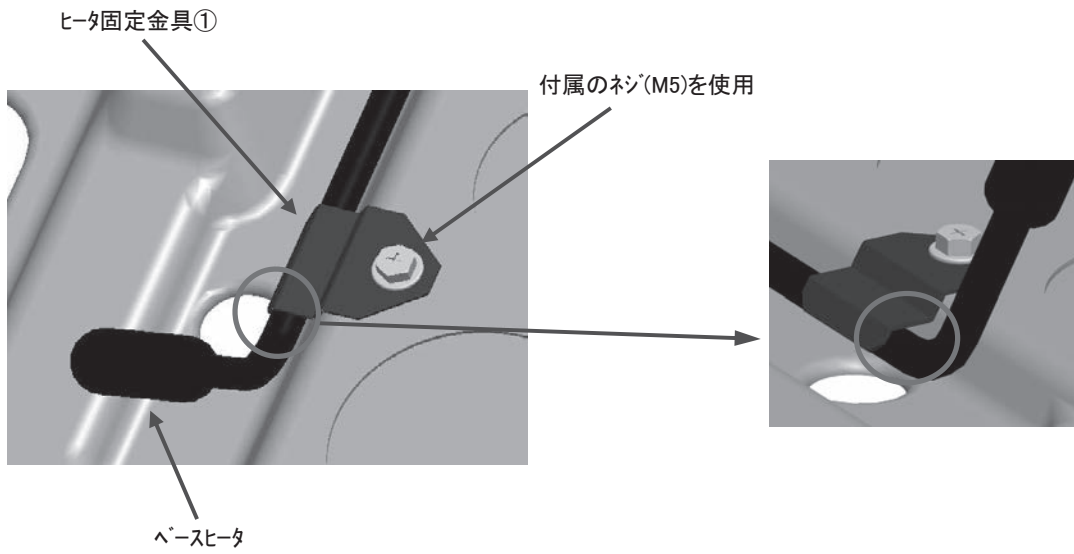


※1)ベースヒータとヒータ固定金具②は下図の  
通り正しく固定を行ってください。



#### 作業4.ヒータ固定金具①をベースヒータに取付け

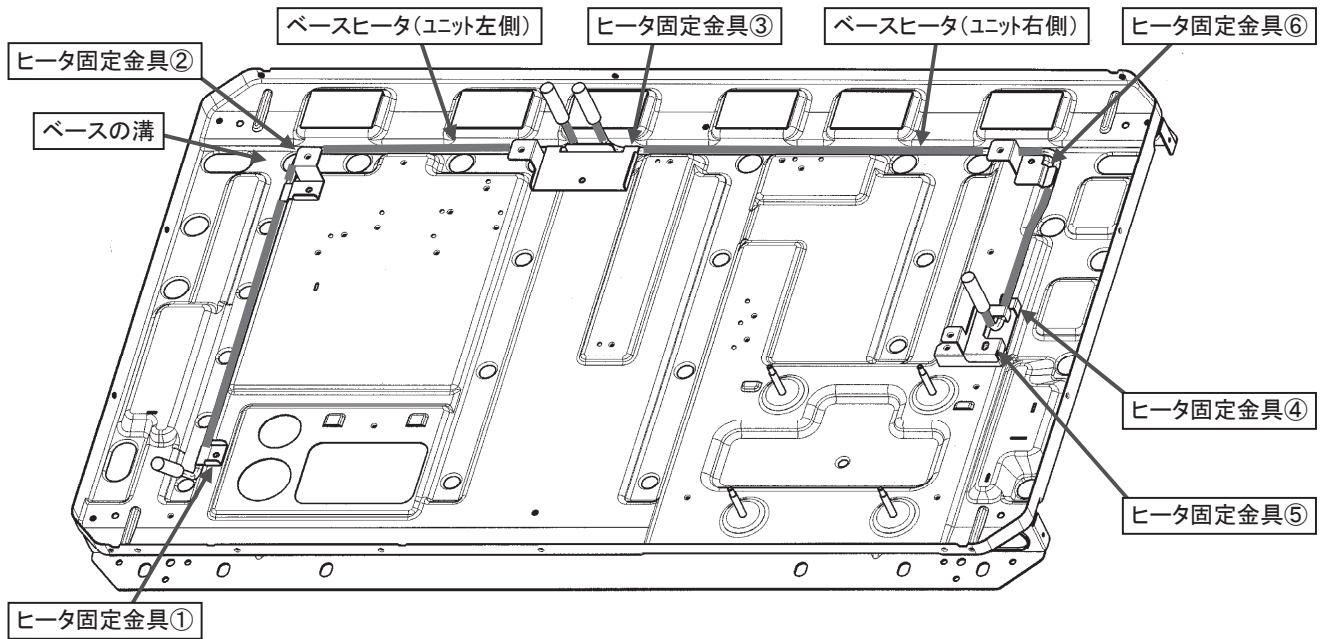
※1)ベースヒータとヒータ固定金具は  
正しく固定を行ってください。  
<詳細は、『作業1※1,2』を参照のこと>



## <PAC-KS26BH> :[L\_A type]

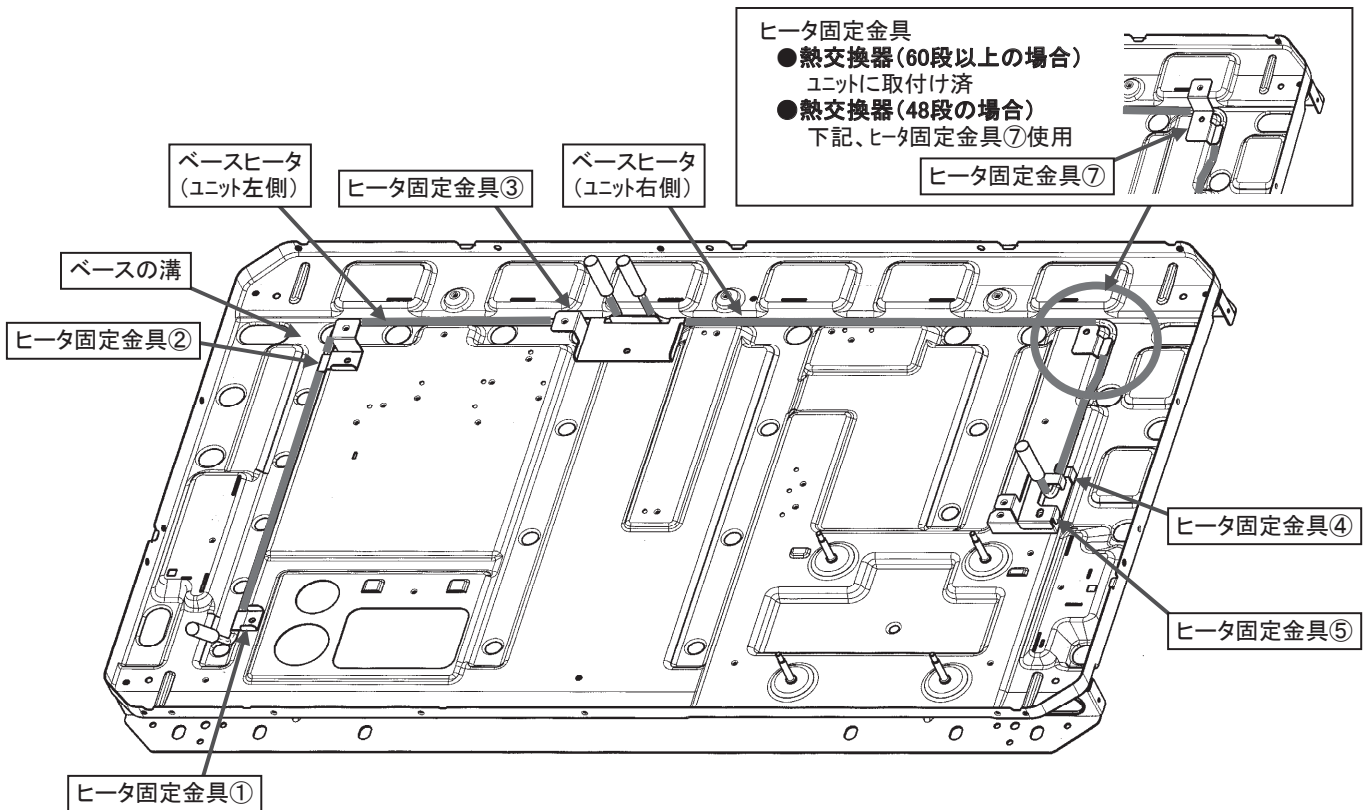
ベースヒータは、ユニット底面のベースの溝に沿わせて取付けます。

### アキュレータ仕様(縦置きの場合)



※)図はベース板金上の部品を省略しております。

### アキュレータ仕様(横置きの場合)



※)図はベース板金上の部品を省略しております。

- 下記(5)-1～(5)-5の作業手順に従って、ベースヒータをユニット内に取付けます。

注: 怪我の危険性を減らすために、ベースヒータを設置するとき、保護具着用ください。

(5)-1 下図の通りネジを取外します。

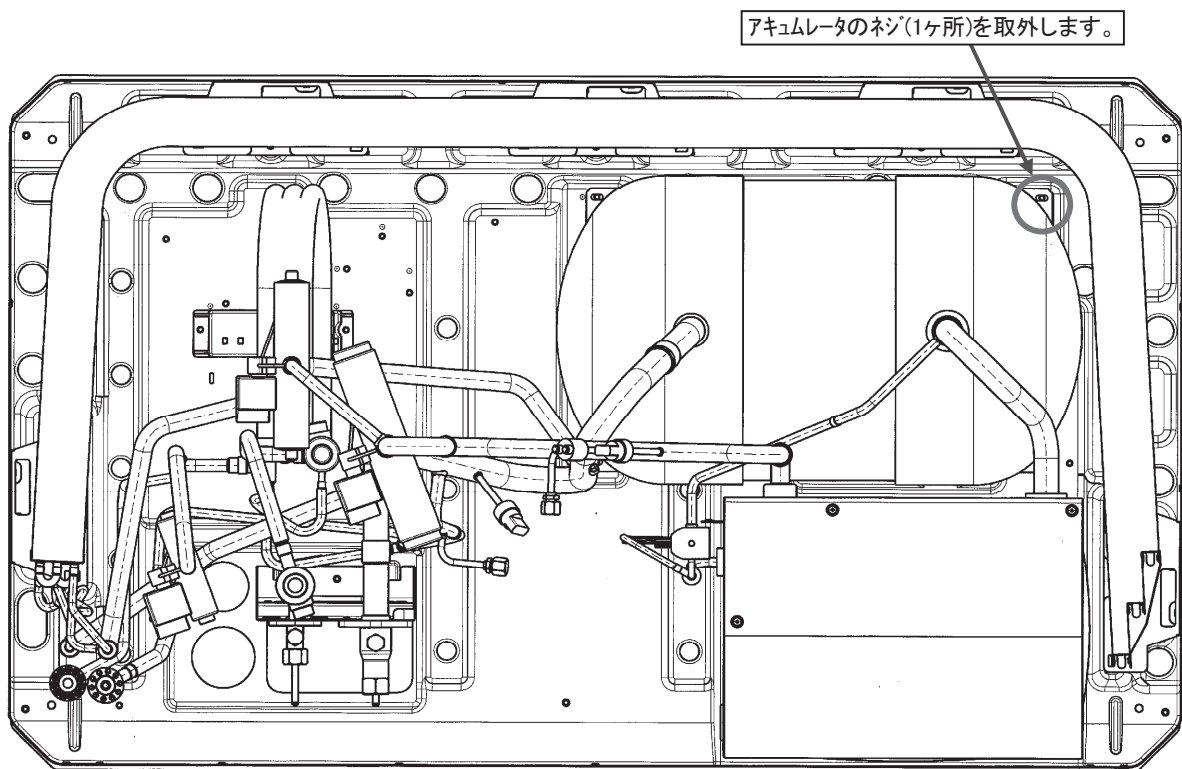
※アキュムレータの仕様については、別紙:機種早見表を参照ください

**アキュムレータ仕様(縦置きの場合)**

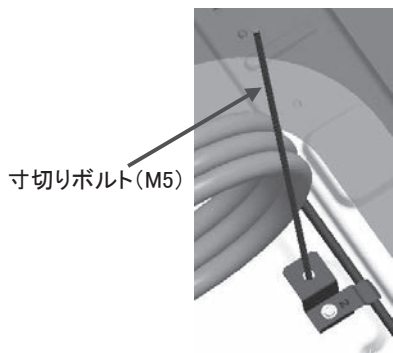
- 取外すネジはありません。

**アキュムレータ仕様(横置きの場合)**

- 熱交換器(60段以上の場合)  
取外すネジはありません。
- 熱交換器(48段の場合)  
下図の通りネジを取外します。



(5)-2 ヒータ固定金具⑥、⑦の取付け

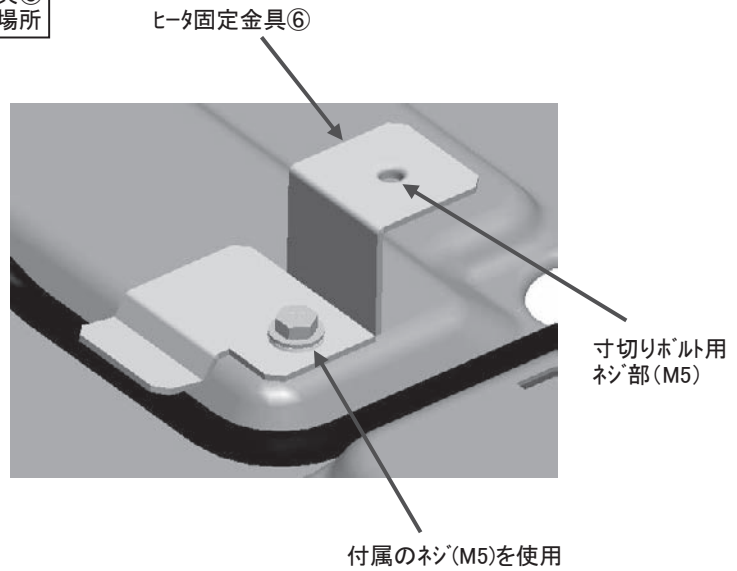
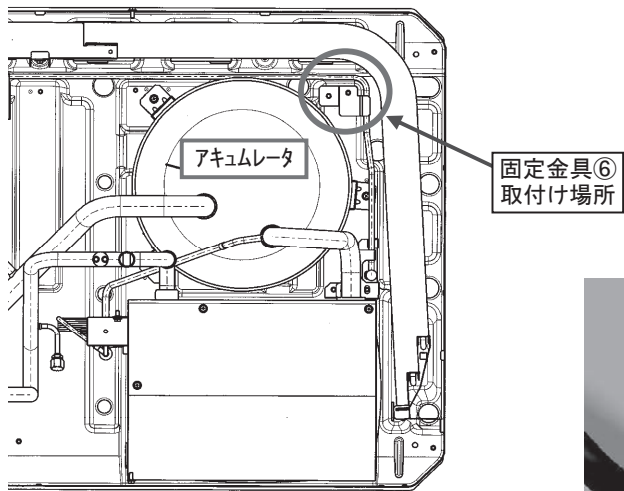


<寸切りボルト(M5)使用例>  
※寸切りボルトは使用後取外してください。



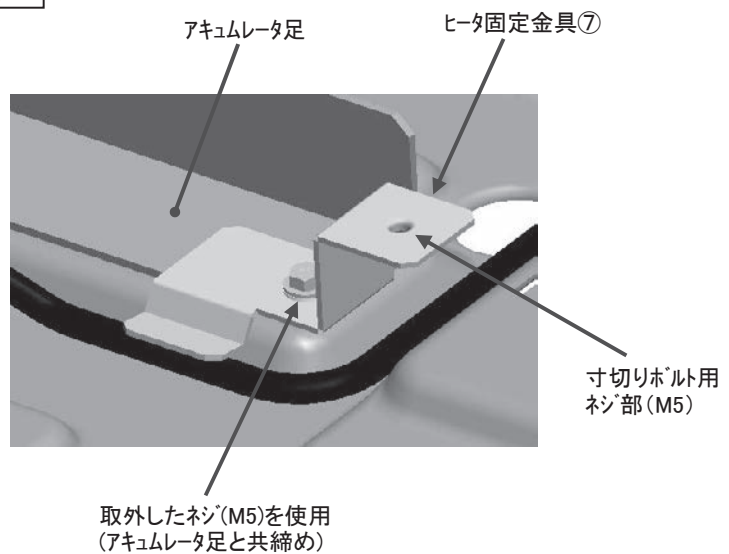
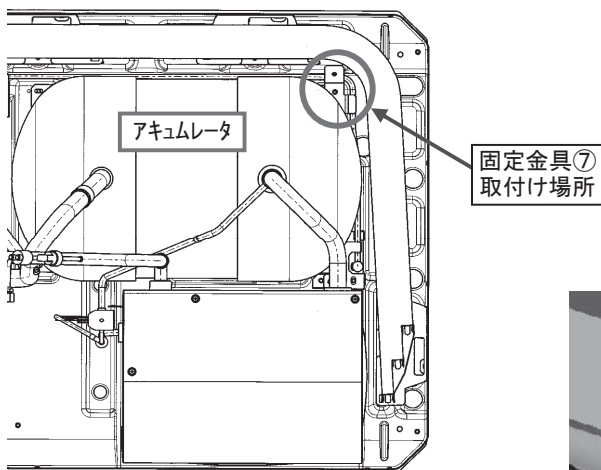
### アキュムレータ仕様(縦置きの場合)

ヒータ固定金具⑥を取付けてください。



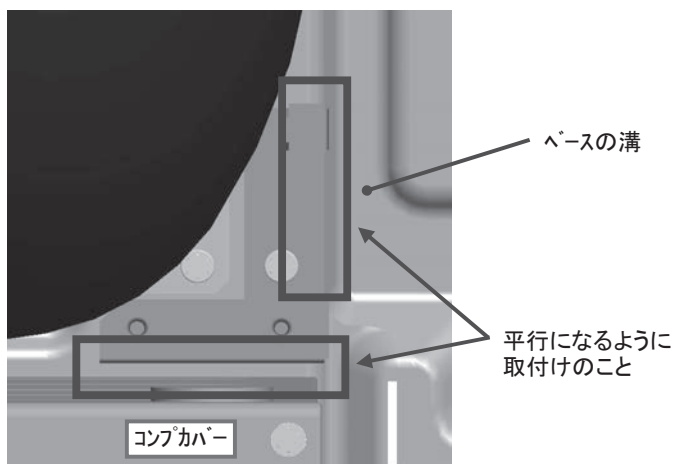
### アキュムレータ仕様(横置きの場合)

- 熱交換器(60段以上の場合)・・・ユニットに取付けられている為、本作業は行いません。
- 熱交換器(48段の場合)・・・・・・ヒータ固定金具⑦を取付けてください。

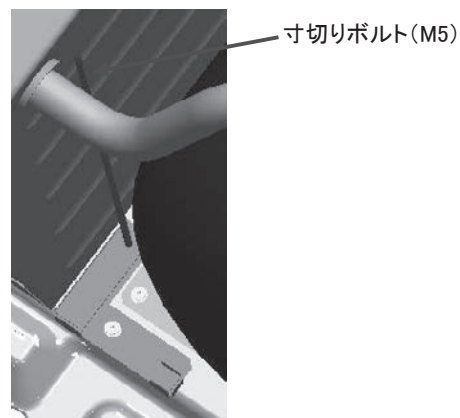


(5)-3 ヒータ固定金具④の取付け

ヒータ固定金具④は、コンブカバー及びベースの溝と平行になるように取付けのこと

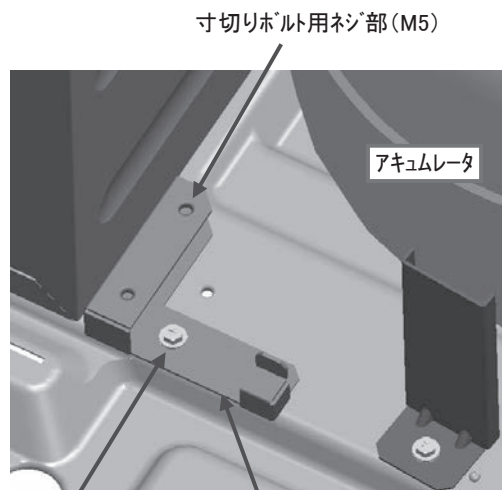
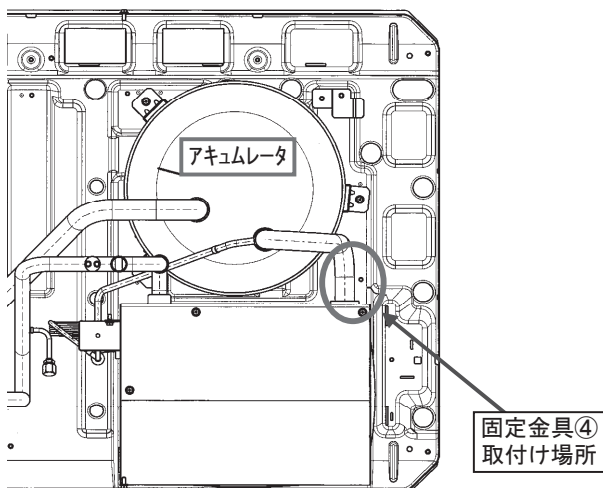


※ヒータ固定金具④取付けの際には、寸切りボルト(M5)を使用すると取付け易くなります。



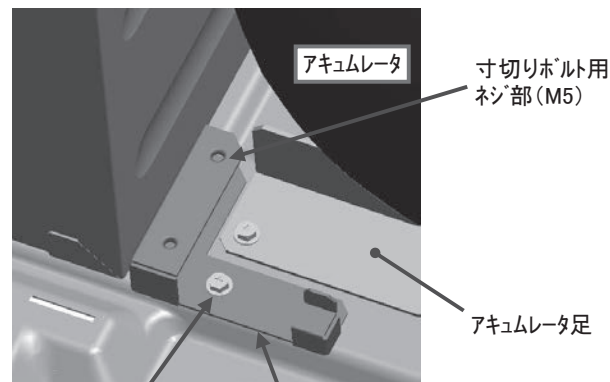
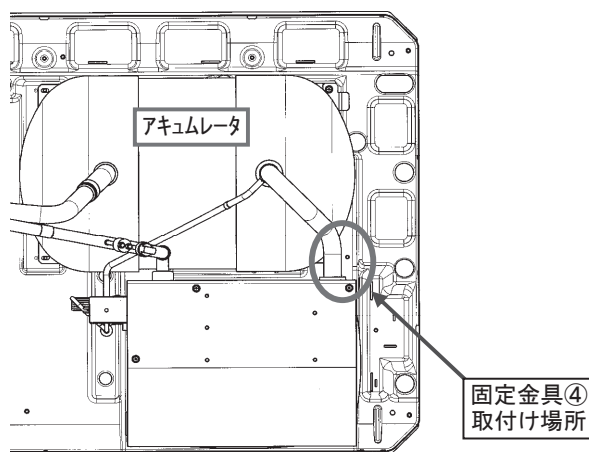
＜寸切りボルト(M5)使用例＞  
※寸切りボルトは使用後取外してください。

アキュムレータ仕様(縦置きの場合)



付属のネジ(M5)を使用

アキュムレータ仕様(横置きの場合)



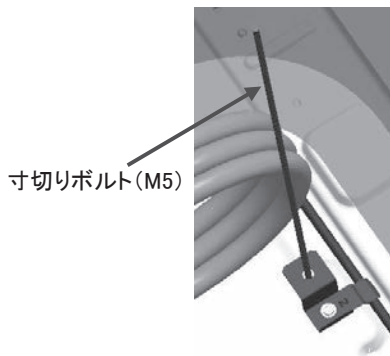
付属のネジ(M5)を使用



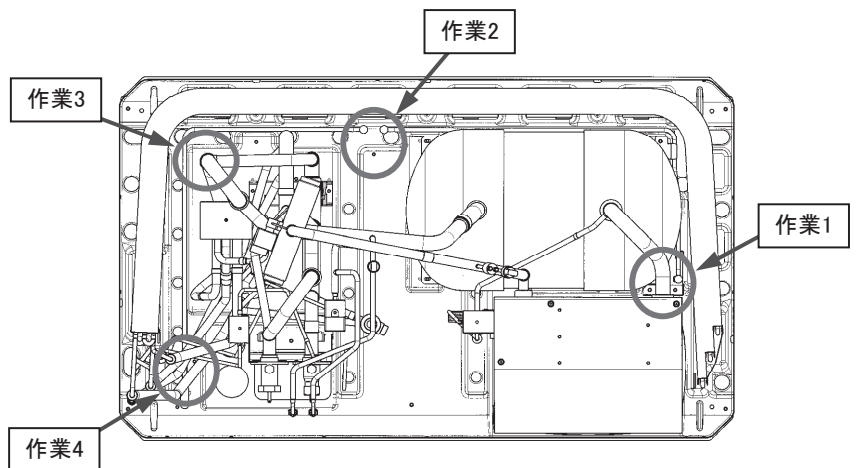
(5)-5 ヒータ固定金具の取付け

※ヒータ固定金具②、③、⑤取付けの際には、寸切りボルト(M5)を使用すると取付け易くなります。  
作業手順は下記の通りです。

- 作業1.ヒータ固定金具⑤の取付け
- 作業2.ヒータ固定金具③の取付け
- 作業3.ヒータ固定金具②の取付け
- 作業4.ヒータ固定金具①の取付け

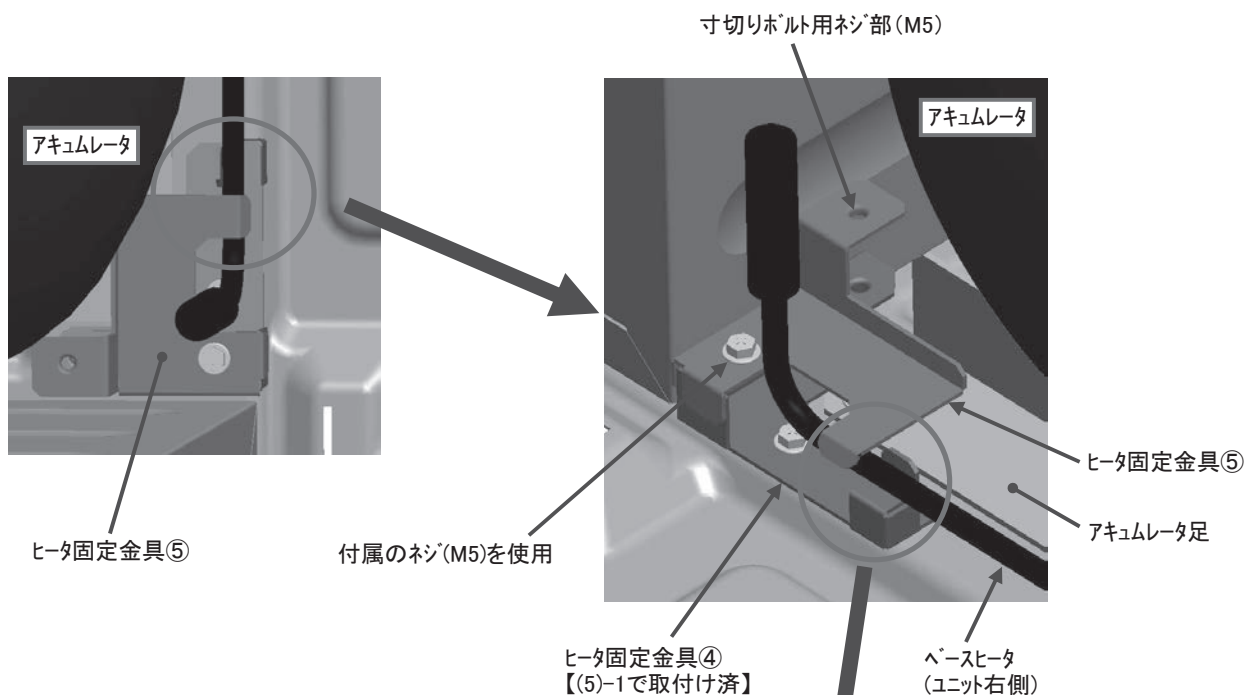


寸切りボルト(M5)

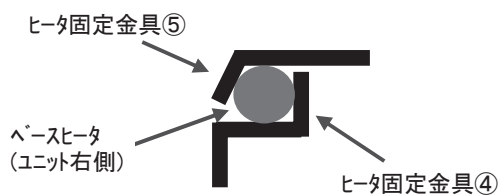


＜寸切りボルト(M5)使用例＞  
※寸切りボルトは使用後取外してください。

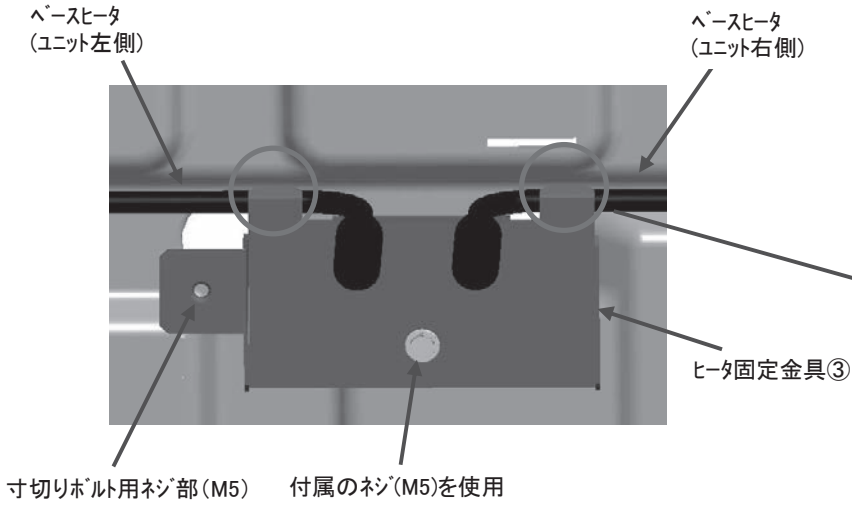
作業1.ヒータ固定金具⑤の取付け



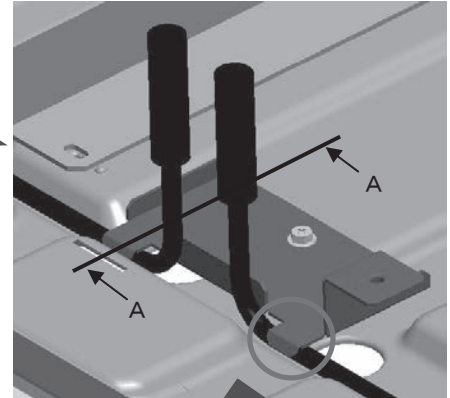
※1)ベースヒータとヒータ固定金具④、⑤は  
下図の通り正しく固定を行ってください。



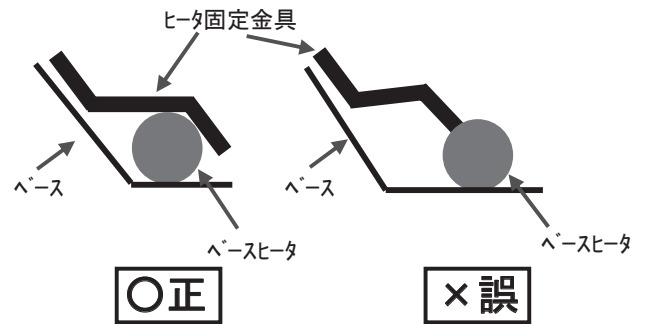
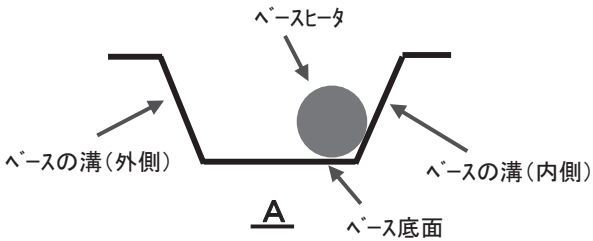
作業2.ヒータ固定金具③の取付け



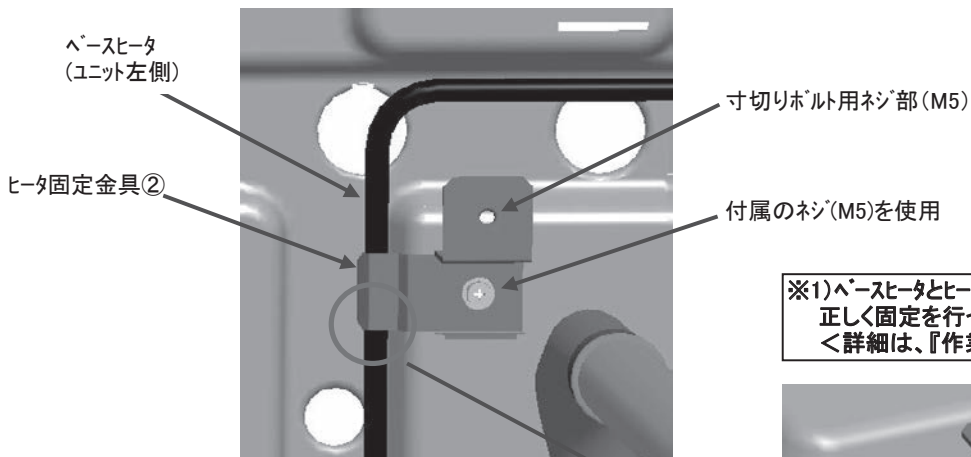
※1)ベースヒータとヒータ固定金具は下図の通り正しく固定を行ってください。



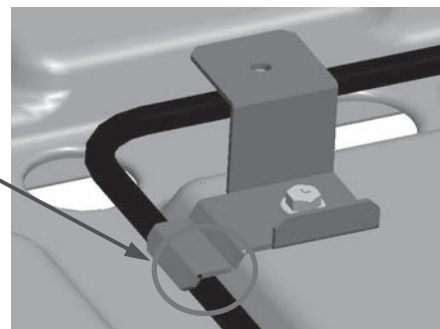
※2)ベース底面とベースヒータは、必ず接触するように固定して下さい。



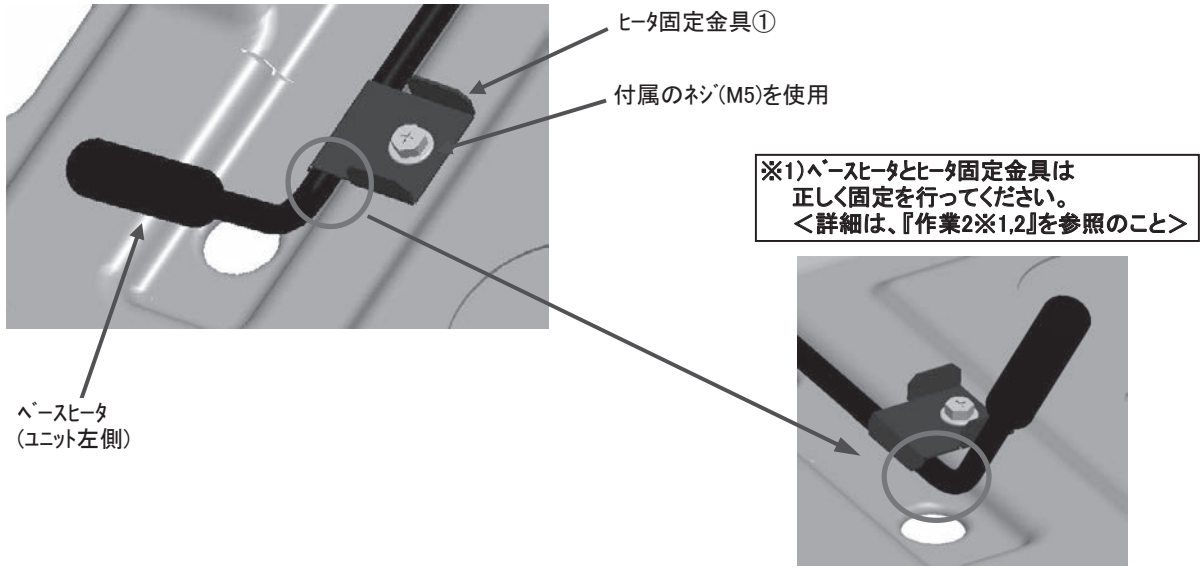
作業3.ヒータ固定金具②の取付け



※1)ベースヒータとヒータ固定金具は正しく固定を行ってください。  
<詳細は、『作業2※1,2』を参照のこと>

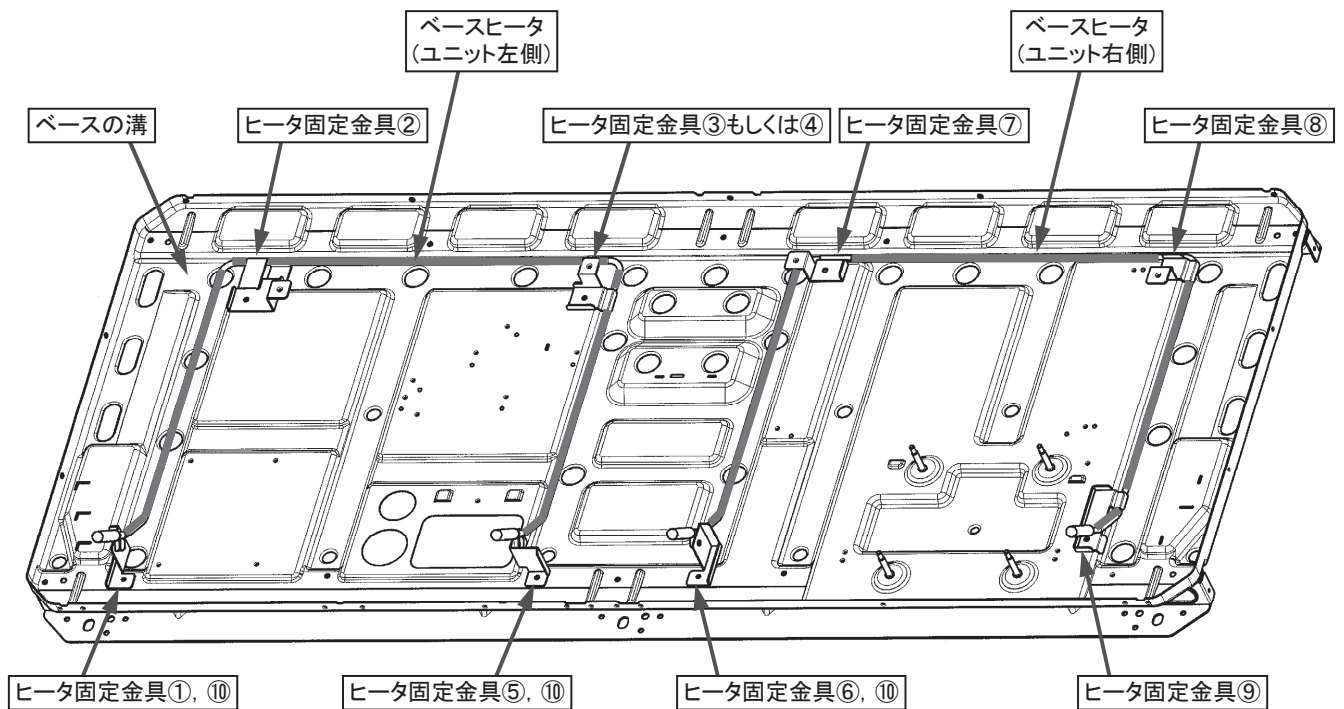


## 作業4.ヒータ固定金具①の取付け



## <PAC-KS23BH> : [XL\_A type]

ベースヒータは、ユニット底面のベースの溝に沿わせて取付けます。

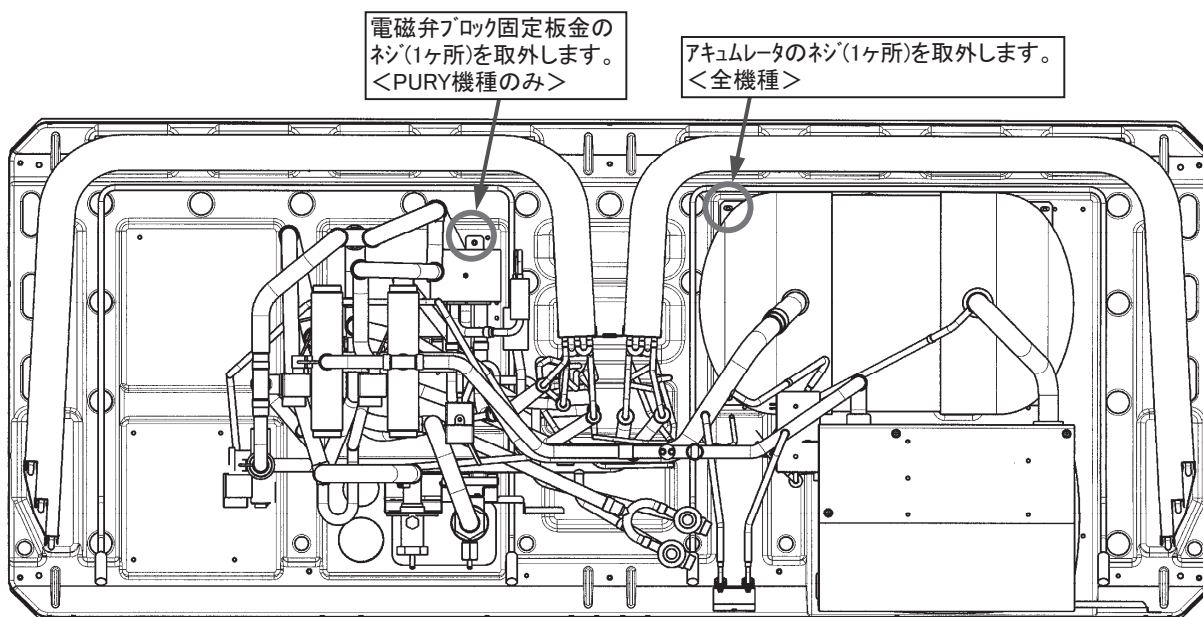


※) 図はベース板金上の部品を省略しております。

- 下記(5)-1～(5)-3の作業手順に従って、ベースヒータをユニット内に取付けます。

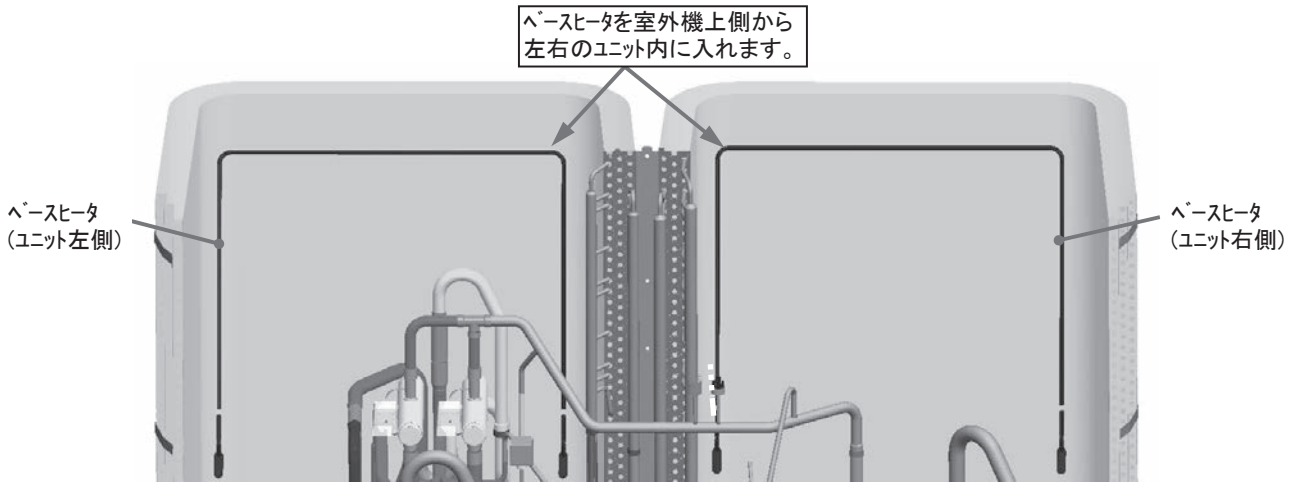
注: 怪我の危険性を減らすために、ベースヒータを設置するとき、保護具着用ください。

(5)-1 下図の通りネジを取外します。

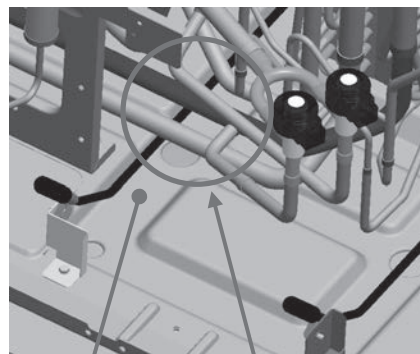
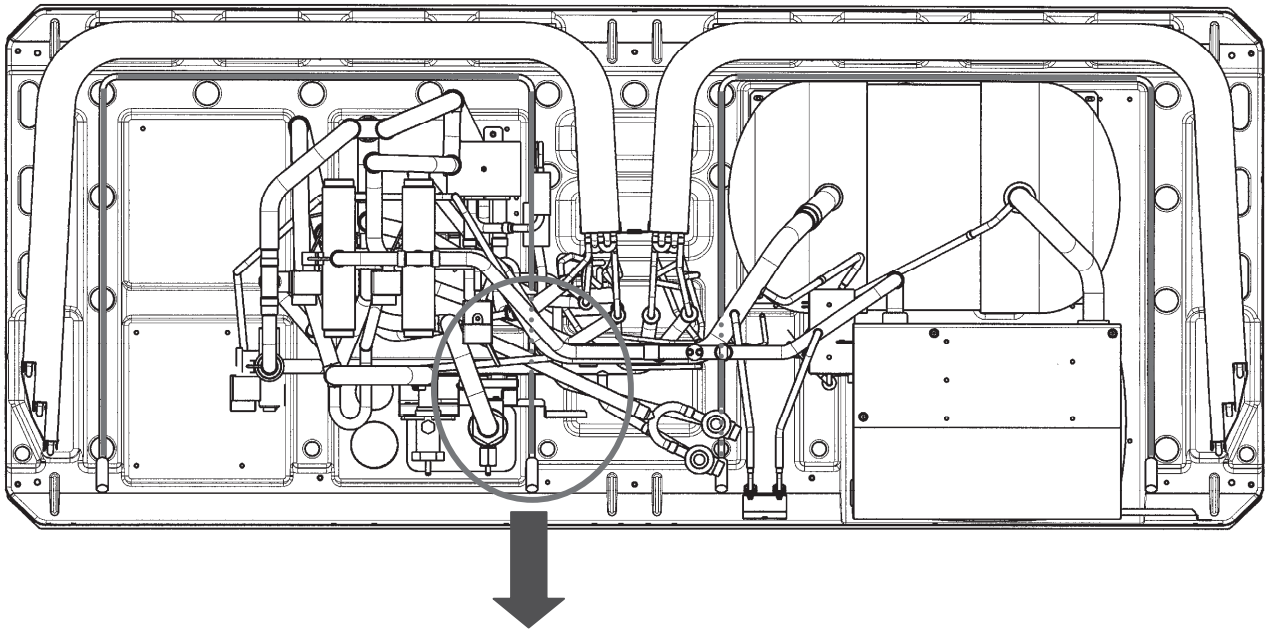




(5)-2 ベースヒータを室外機のベースに設置します。



ベースヒータ挿入状態 (ヒータ固定金具取付け前)



ベースの溝

ベースヒータが他の配管と接触しないよう、ベースの溝に沿わせて置きます。

(5)-3 ヒータ固定金具の取付け

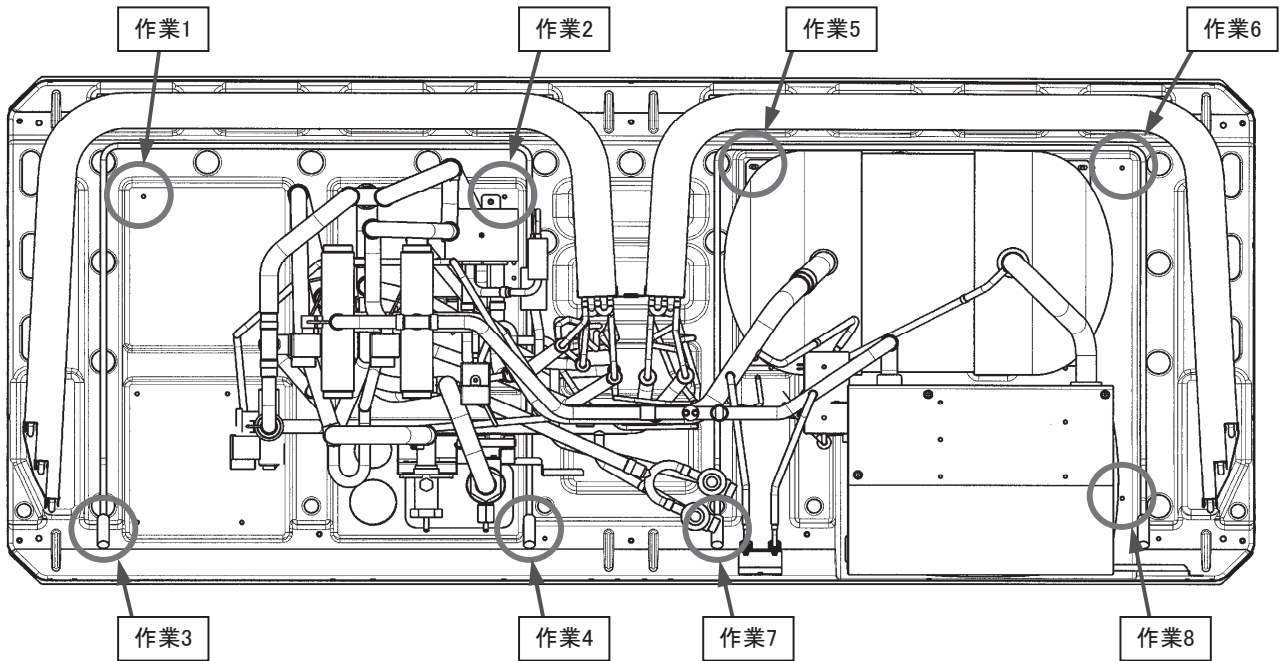
※ヒータ固定金具②、③、④、⑦、⑧取付けの際には、寸切りボルト(M5)を使用すると取付け易くなります。  
作業手順は下記の通りです。

- 作業1.ヒータ固定金具②の取付け
- 作業2.ヒータ固定金具③か④の取付け
- 作業3.ヒータ固定金具①と⑩の取付け
- 作業4.ヒータ固定金具⑤と⑩の取付け
- 作業5.ヒータ固定金具⑦の取付け
- 作業6.ヒータ固定金具⑧の取付け
- 作業7.ヒータ固定金具⑥と⑩の取付け
- 作業8.ヒータ固定金具⑨の取付け

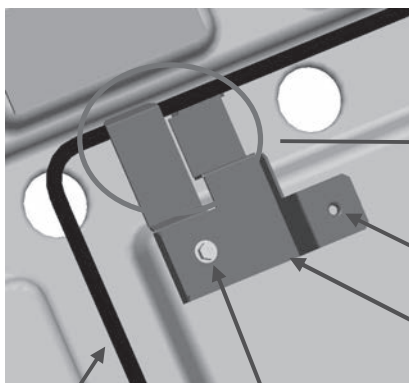
寸切りボルト(M5)



＜寸切りボルト(M5)使用例＞  
※寸切りボルトは使用後取外してください。

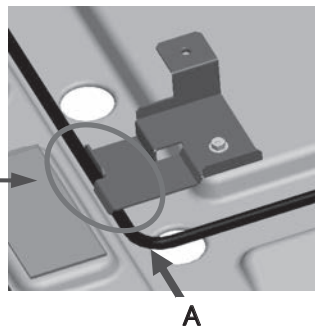


作業1.ヒータ固定金具②の取付け

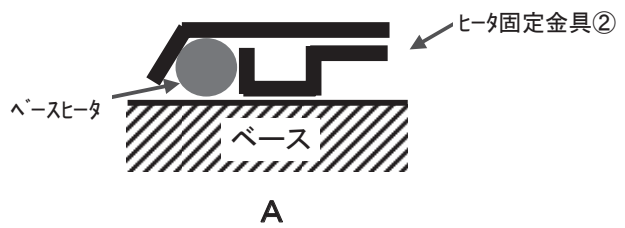


寸切りボルト用  
ネジ部(M5)  
ヒータ固定金具②

ベースヒータ  
(ユニット左側)  
付属のネジ(M5)を使用

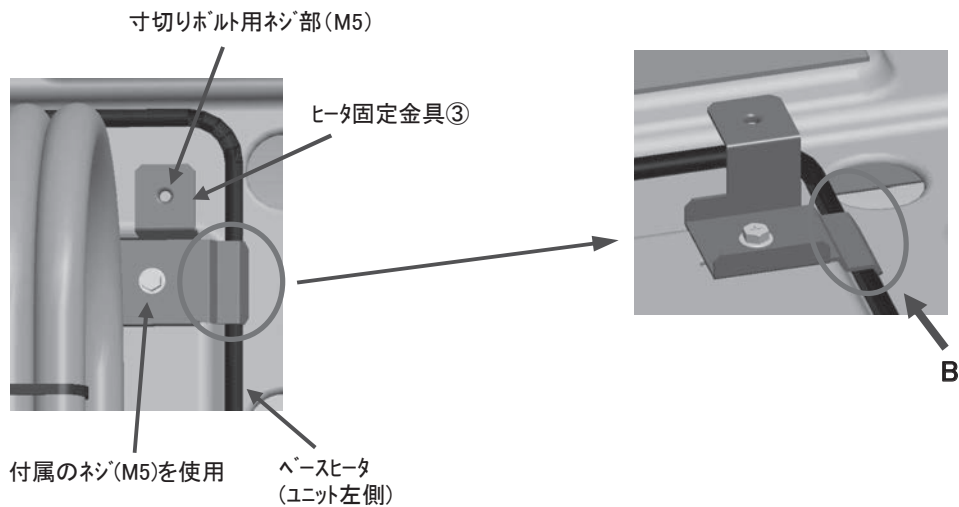


※1)ベースヒータとヒータ固定金具②は下図の通り正しく固定を行ってください。

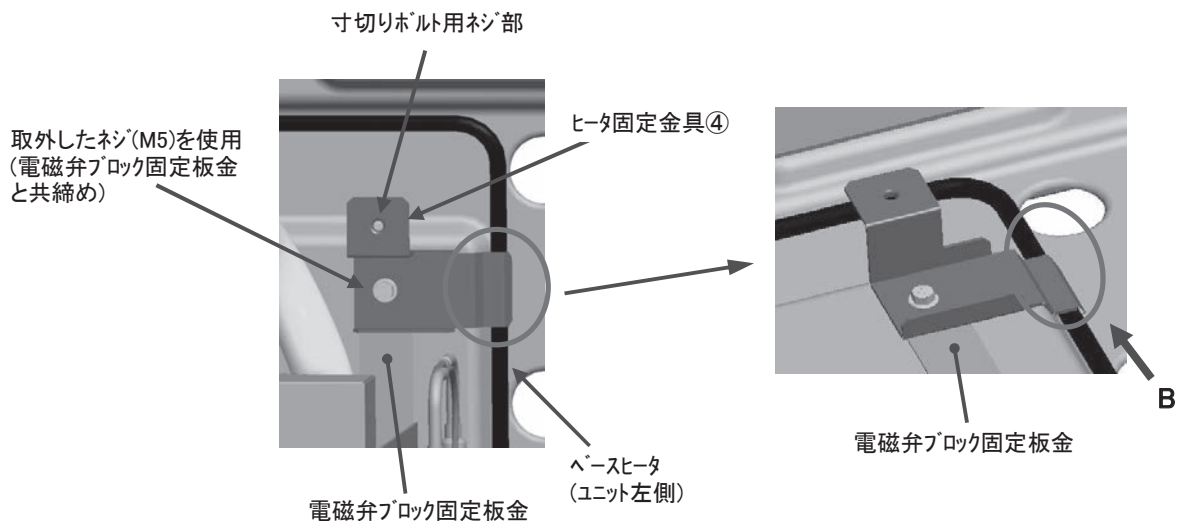


作業2.ヒータ固定金具③もしくは④の取付け

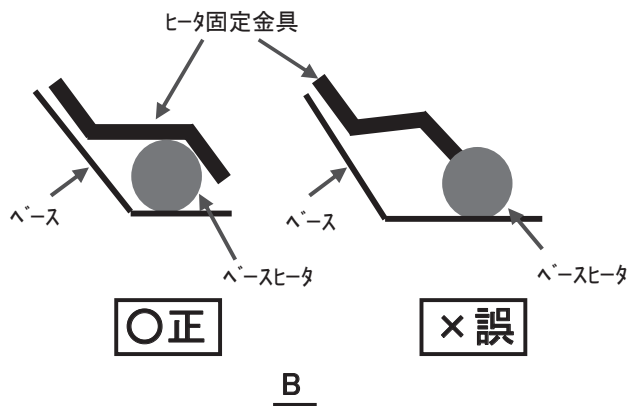
PUHY機種の場合  
ヒータ固定金具③の取付け



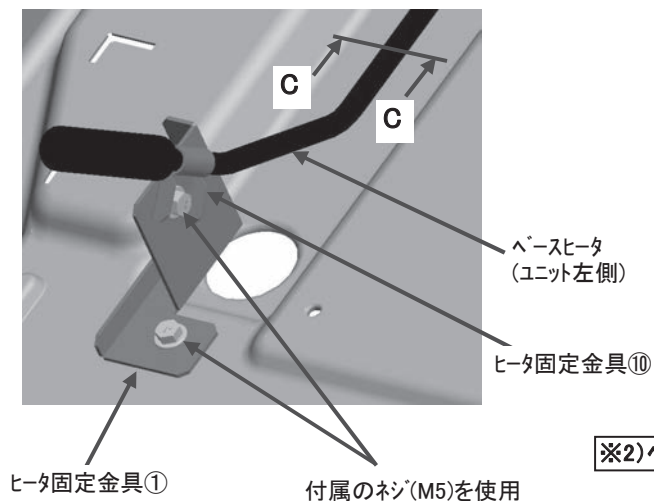
PURY機種の場合  
ヒータ固定金具④の取付け



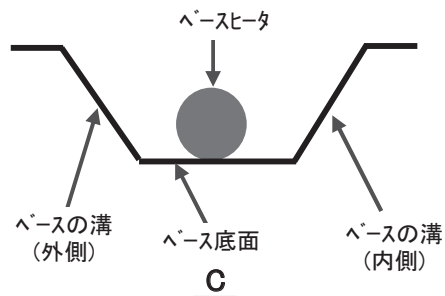
※1)ベースヒータとヒータ固定金具は下図の通り正しく固定を行ってください。



### 作業3.ヒータ固定金具①と⑩の取付け

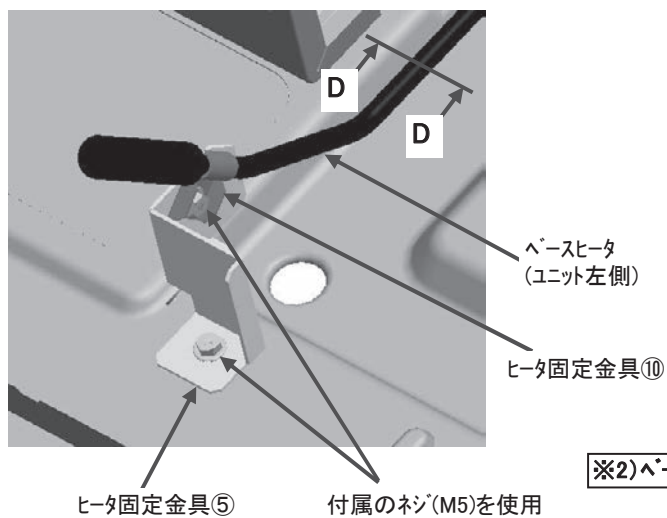


※1)ベースヒータをベースの中央に設置し、ヒータ固定金具①と⑩で固定してください。

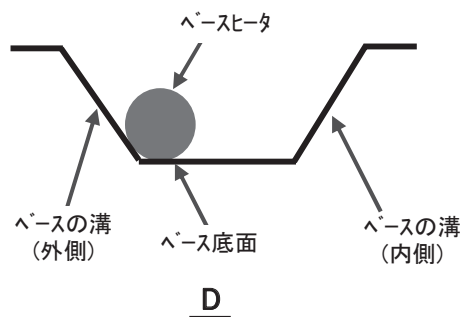


※2)ベース底面とベースヒータは必ず接触するように固定してください。

### 作業4.ヒータ固定金具⑤と⑩の取付け

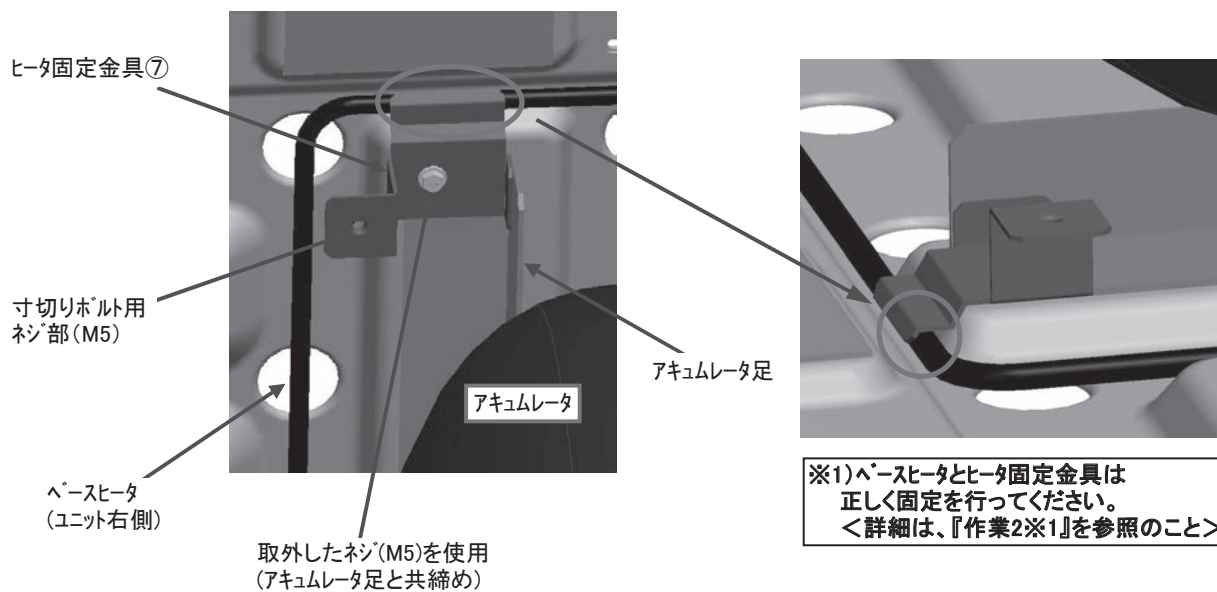


※1)ベースヒータをベースの溝(外側)に沿わせてヒータ固定金具⑤と⑩で固定してください。

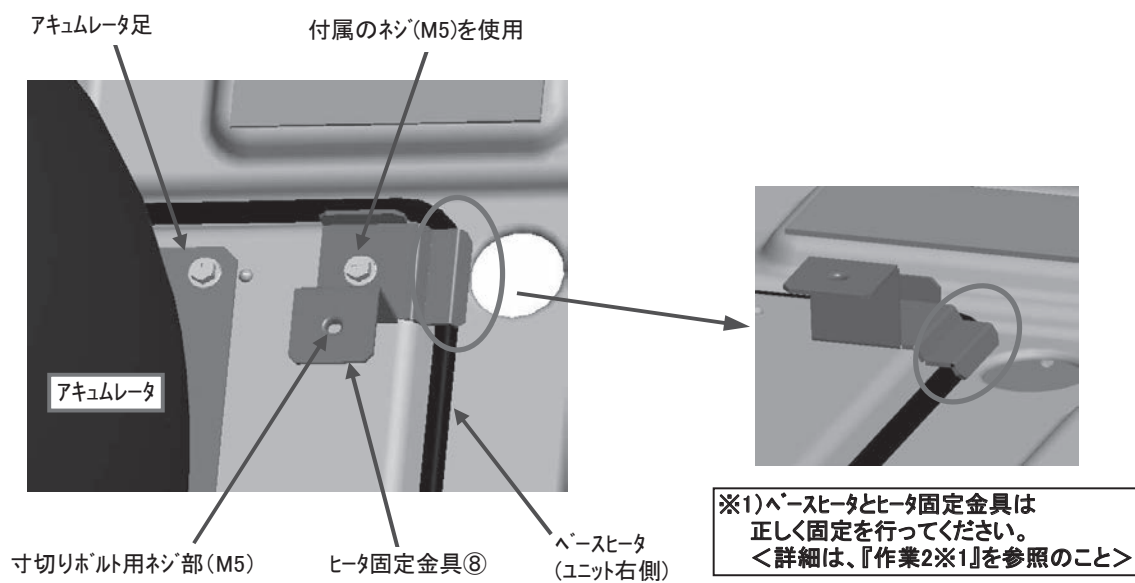


※2)ベース底面とベースヒータは必ず接触するように固定してください。

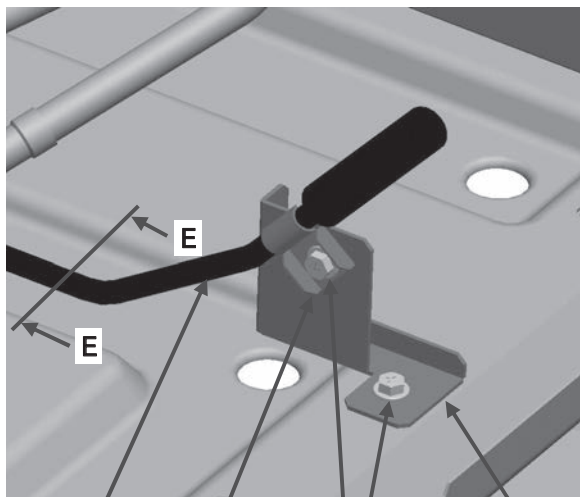
### 作業5.ヒータ固定金具⑦の取付け



### 作業6.ヒータ固定金具⑧の取付け

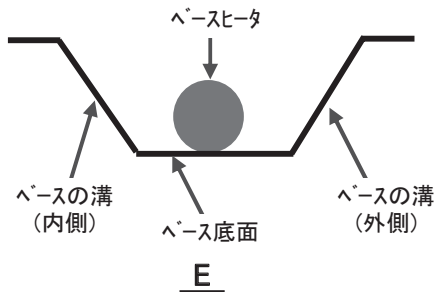


作業7.ヒータ固定金具⑥と⑩の取付け



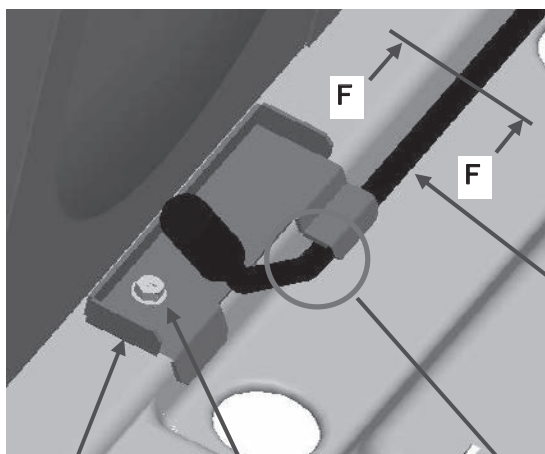
ヒータ固定金具⑩  
ヒータ固定金具⑥  
付属のネジ(M5)を使用  
ベースヒータ  
(ユニット右側)

※1)ベースヒータをベースの中央に設置してヒータ固定金具⑥と⑩で固定してください。



※2)ベース底面とベースヒータは必ず接触するように固定してください。

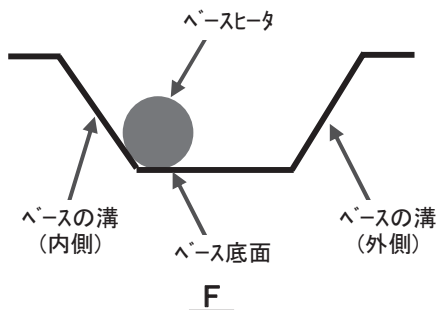
作業8.ヒータ固定金具⑨の取付け



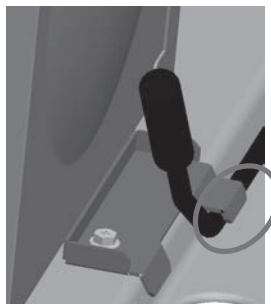
ヒータ固定金具⑨  
付属のネジ(M5)を使用

ベースヒータ  
(ユニット右側)

※1)ベースヒータをベースの溝(内側)に沿わせてヒータ固定金具⑨で固定してください。



※2)ベース底面とベースヒータは必ず接触するように固定してください。



※3)ベースヒータとヒータ固定金具は正しく固定を行ってください。  
<詳細は、『作業2※1』を参照のこと>

## 6.ベースヒータの配線作業

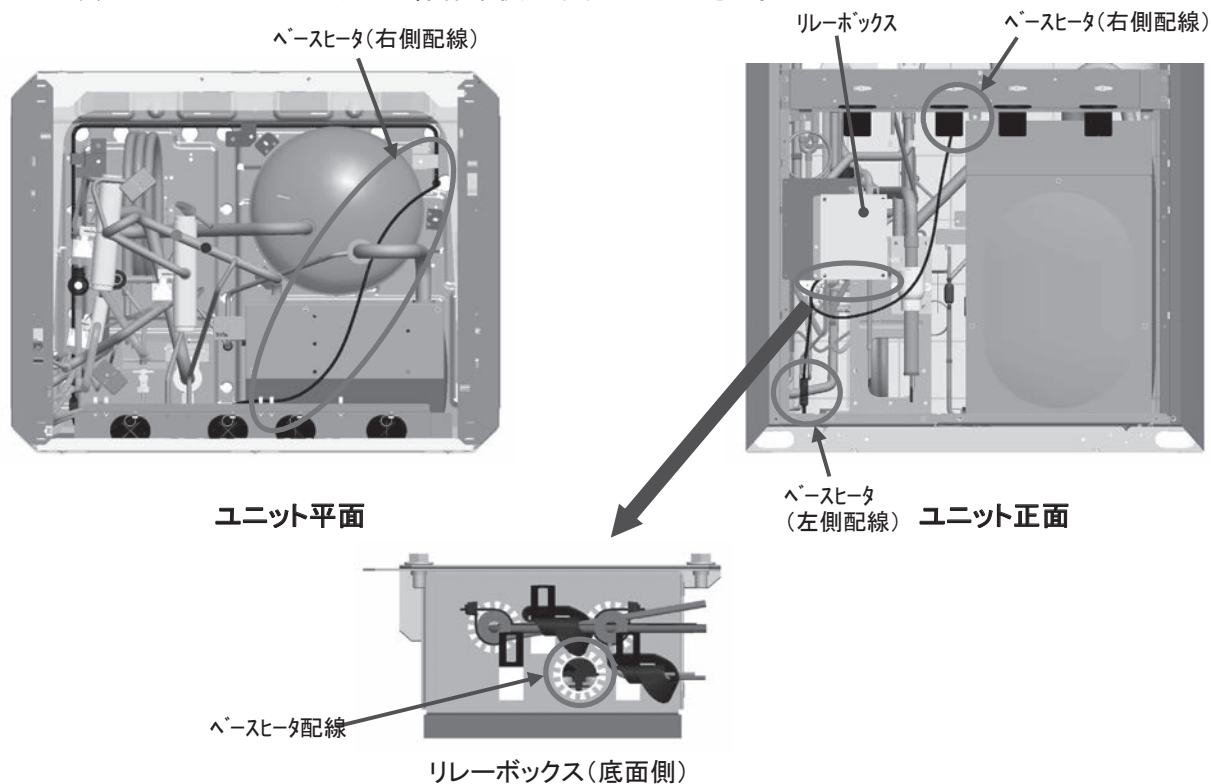
※アクティブフィルター併用の場合

各モジュールの配線作業時、板金のエッジ、配管等に接触しないよう室外機(前板)側のストラップまで配線して下さい。

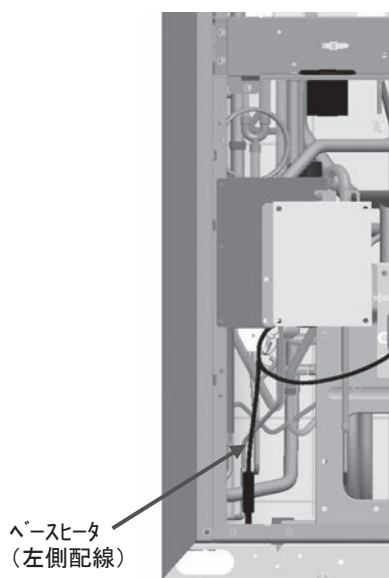
### <PAC-KS25BH> :[S\_A type]

ベースヒータからリレーボックスまでの配線は、下図の通り配線作業します。

また、リレーボックスはベースヒータの配線作業後に取付けてください。



i) ベースヒータ左側の配線は、下図のように配線して下さい。



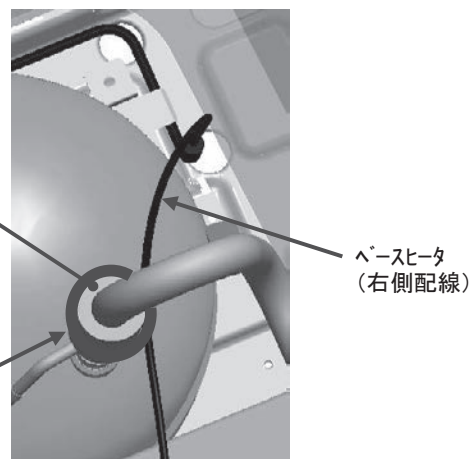
ii) ベースヒータ右側の配線は、下図のように配線して下さい。

圧縮機とアキュムレータを繋ぐ配管に付属のパイプカバー(内径φ29)を巻き、パイプカバーとベースヒータ右側の配線を付属の結束バンドで固定して下さい。

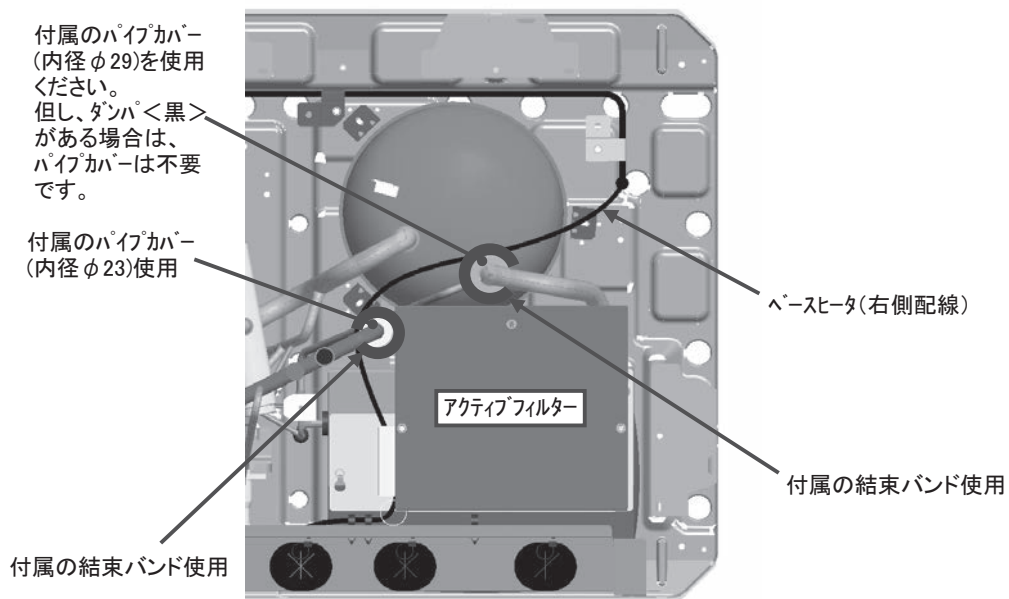
但し、圧縮機とアキュムレータを繋ぐ配管にダンパ(黒)が巻きついている場合は、パイプカバーを使用せず、ダンパ(黒)に付属の結束バンドで固定して下さい。

付属のパイプカバー(内径φ29)を使用して下さい。但し、ダンパ(黒)がある場合は、パイプカバーは不要です。

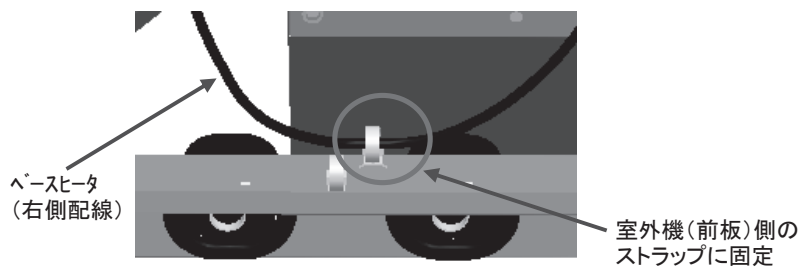
付属の結束バンド使用



※1アクティブフィルター併用の場合は、下図の様に配線作業を行ってください。



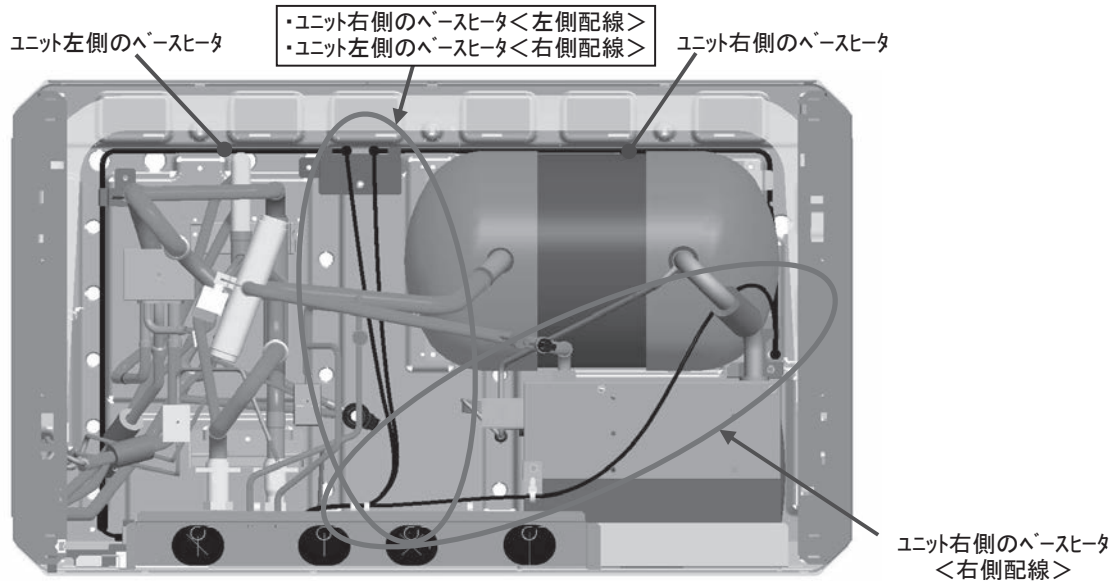
室外機(前板)側のストラップに固定して下さい。



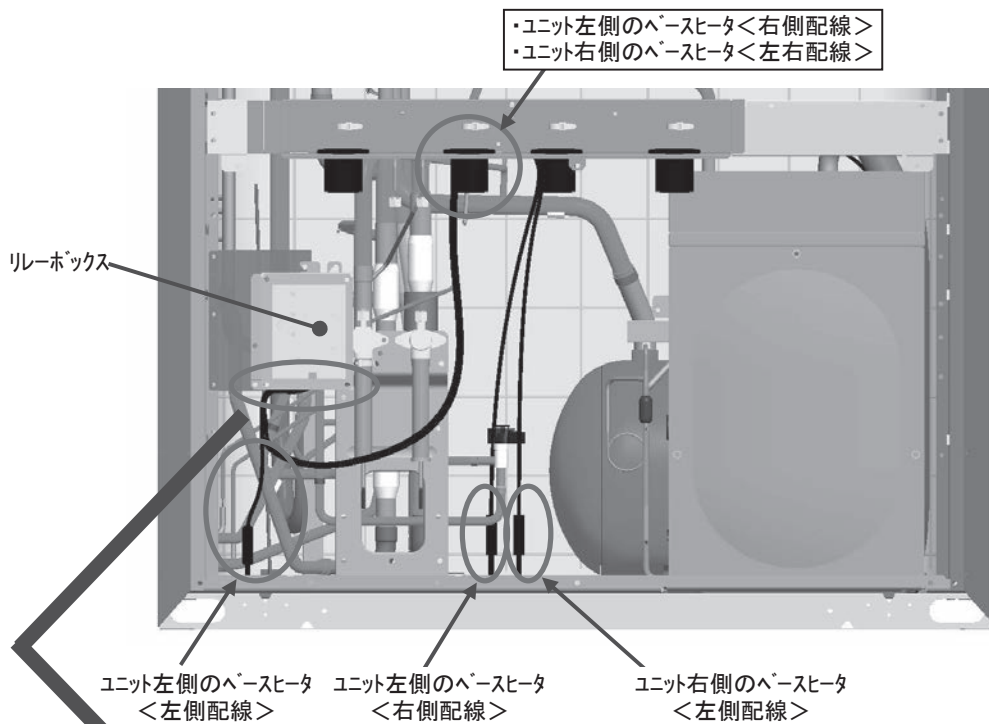


## <PAC-KS26BH> : [L\_A type]

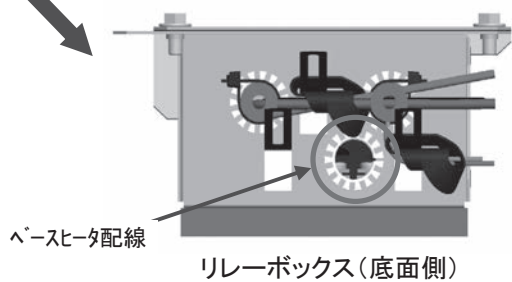
ベースヒータからリレーボックスまでの配線は、下図の通り配線作業します。  
 配線作業は、ユニット右側のベースヒータから行います。  
 また、リレーボックスはユニット左右のベースヒータ配線作業後に取付けてください。



ユニット平面

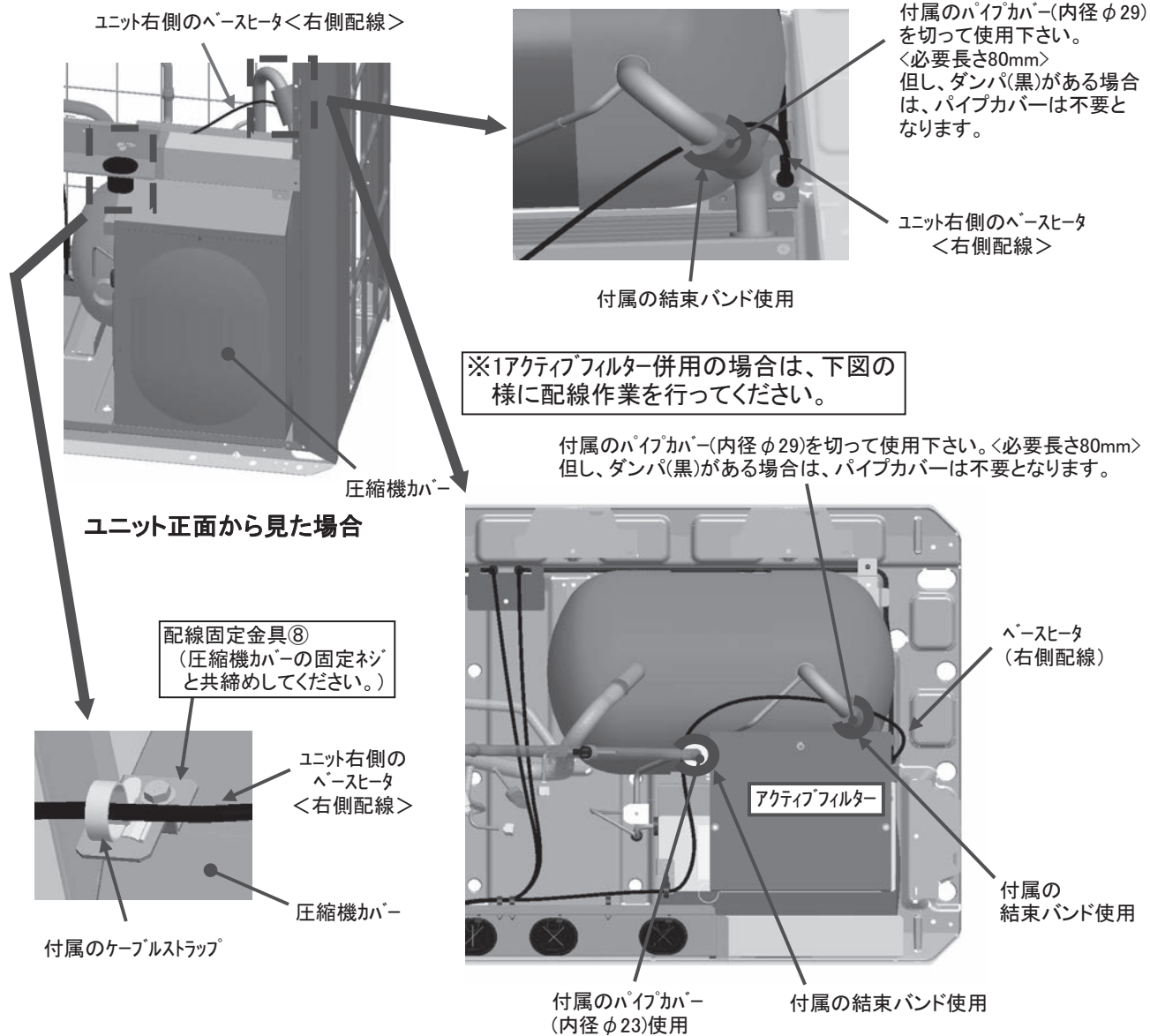


ユニット正面



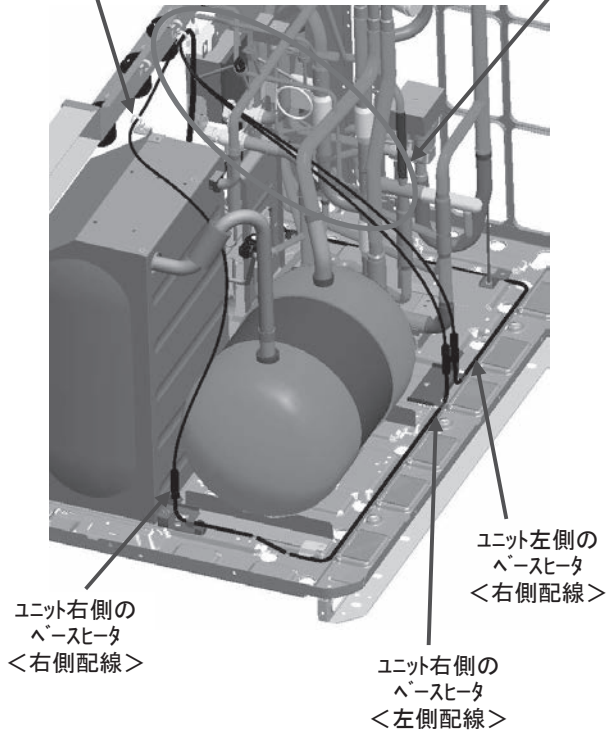
i) ユニット右側のベースヒータ<左右配線>とユニット左側のベースヒータ<右側配線>は、下図のように配線作業して下さい。

圧縮機とアクムレータを繋ぐ配管に付属のパイプカバーを切って巻き、パイプカバーとユニット右側のベースヒータ<右側配線>を付属の結束バンドで固定して下さい。  
 但し、圧縮機とアクムレータを繋ぐ配管にダンパ(黒)が巻きつけてある場合は、パイプカバーを使用せず、ダンパ(黒)に付属の結束バンドで固定して下さい。  
 次に、圧縮機カバーに配線固定金具⑧を下図の通り取付けて下さい。  
 ユニット右側のベースヒータ<右側配線>を付属のケーブルストラップ(1個)で配線固定金具⑧に固定します。



ユニット右側のベースヒータ<左側配線>とユニット左側のベースヒータ<右側配線>は下記の経路を通り、室外機(前板)側のストラップまで配線して下さい。

- ・配線固定金具⑧
- ・付属のケーブルストラップ

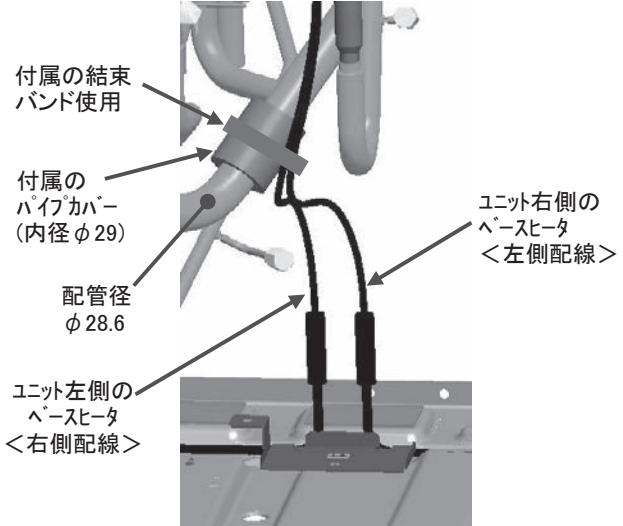


ユニット背面から見た場合

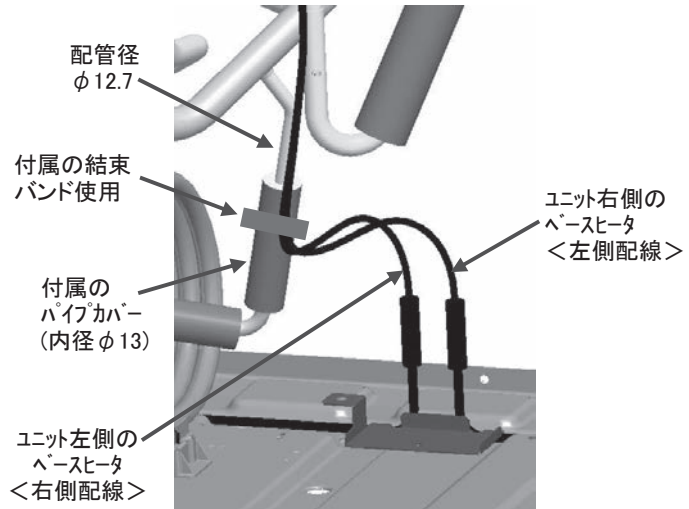
ベースヒータの配線と配管が接触無きこと。接触が懸念される場合は下図のとおりパイプカバーを配管に巻いてヒータを結束下さい。

付属のパイプカバー使用例

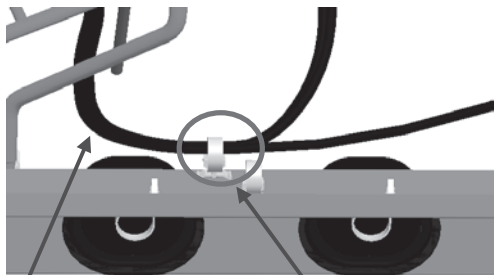
●パイプカバー(内径φ29)の場合



●パイプカバー(内径φ13)の場合

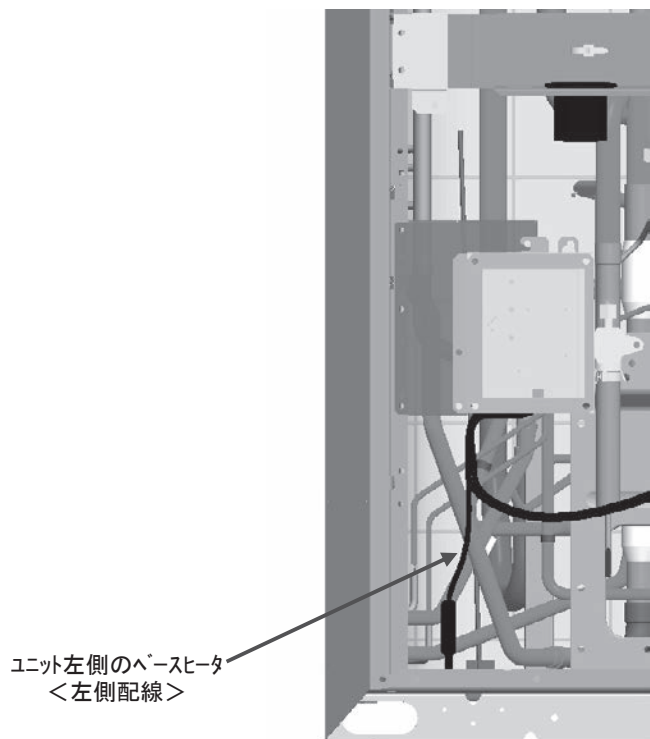


室外機(前板)側のストラップに固定して下さい。



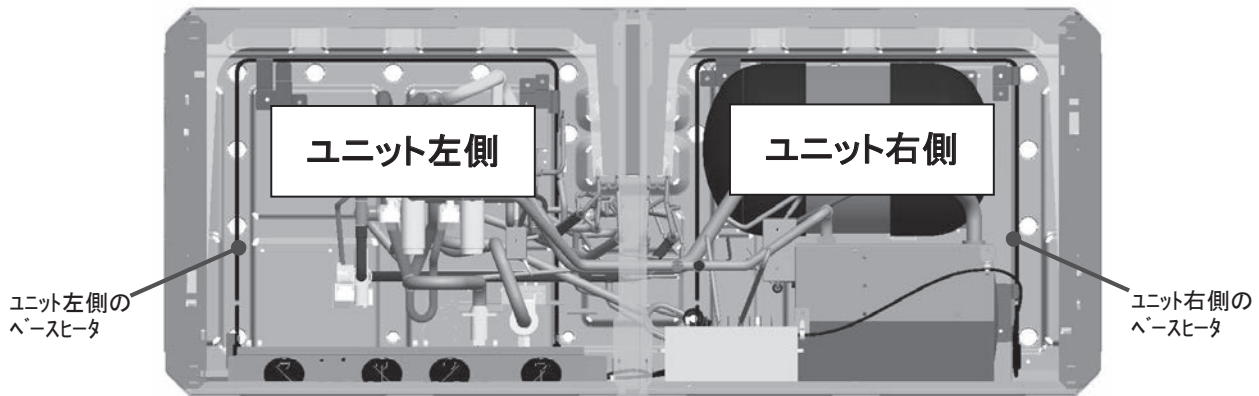
- ・ユニット左側のベースヒータ<右側配線>
  - ・ユニット右側のベースヒータ<左側配線>
- 室外機(前板)側のストラップに固定

ii) ユニット左側のベースヒータ<左側配線>は、下図のように配線作業してください。

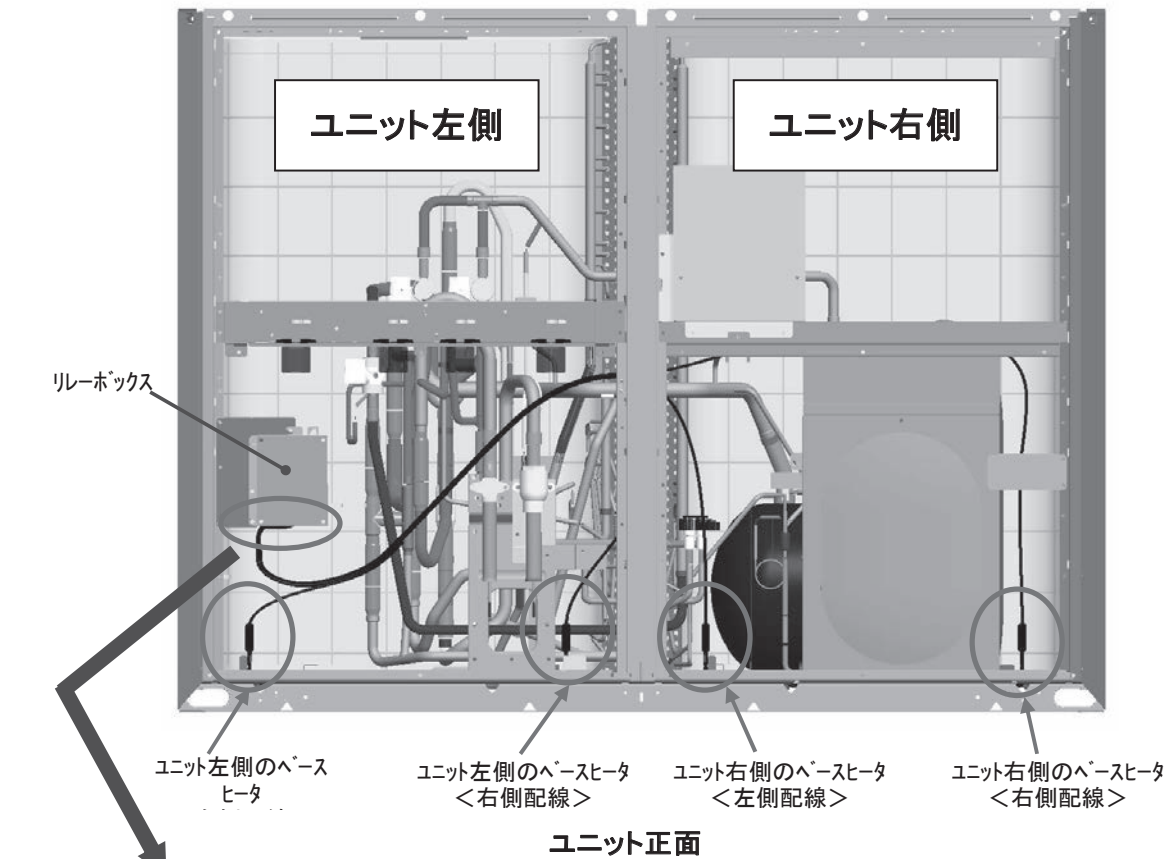


## <PAC-KS23BH> : [XL\_A type]

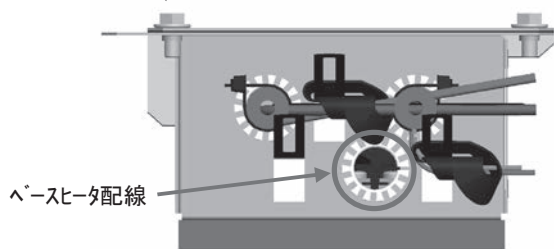
ベースヒータからリレーボックスまでの配線は、下図の通り配線作業します。  
 配線作業は、ユニット右側のベースヒータから行います。  
 また、リレーボックスはユニット左右のベースヒータ配線作業後に取付けてください。



ユニット平面

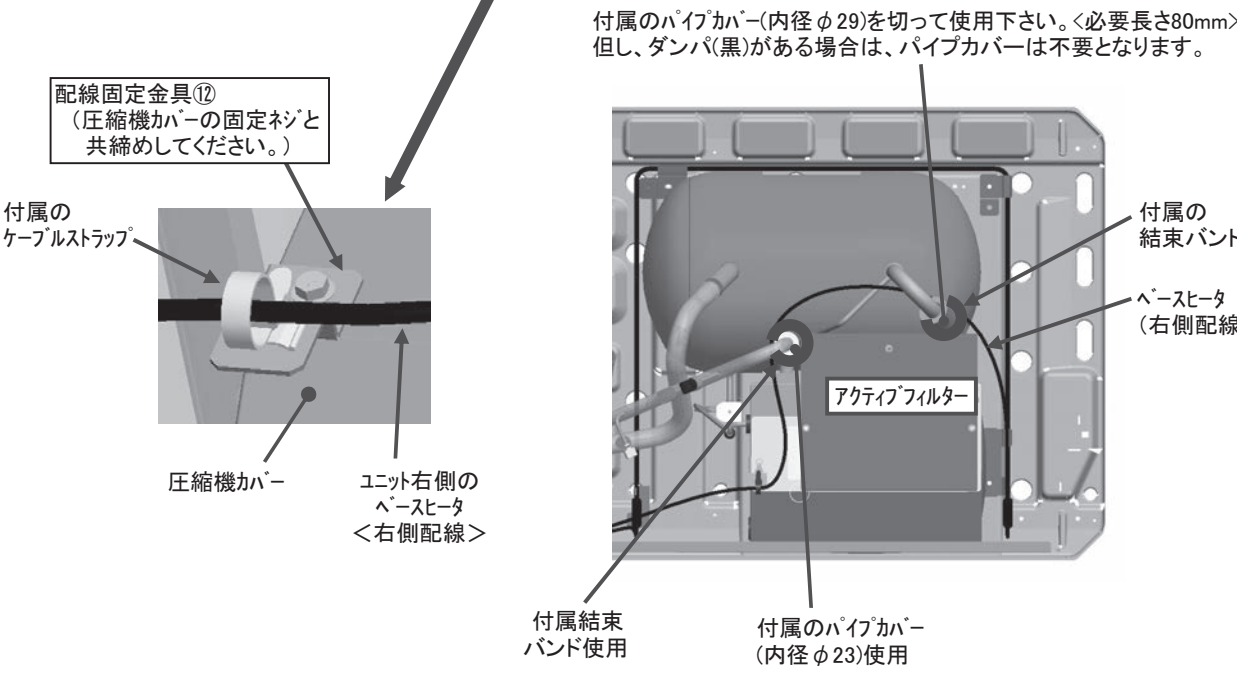
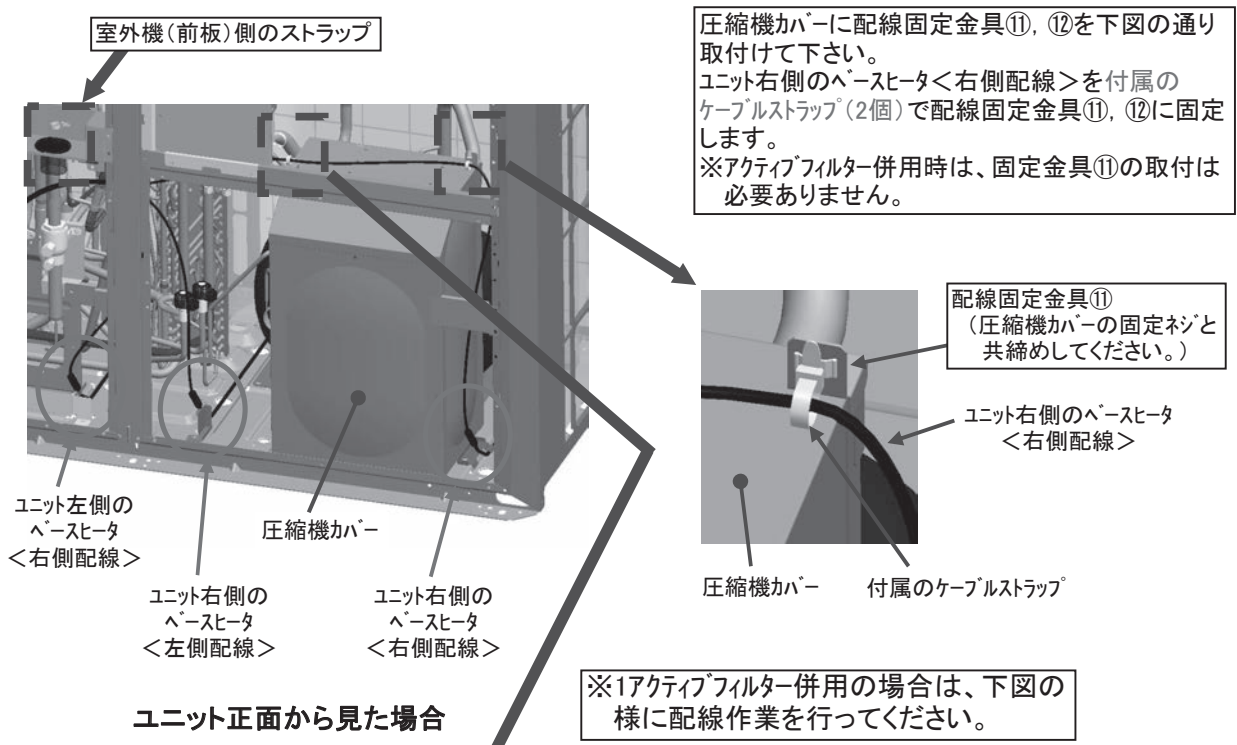


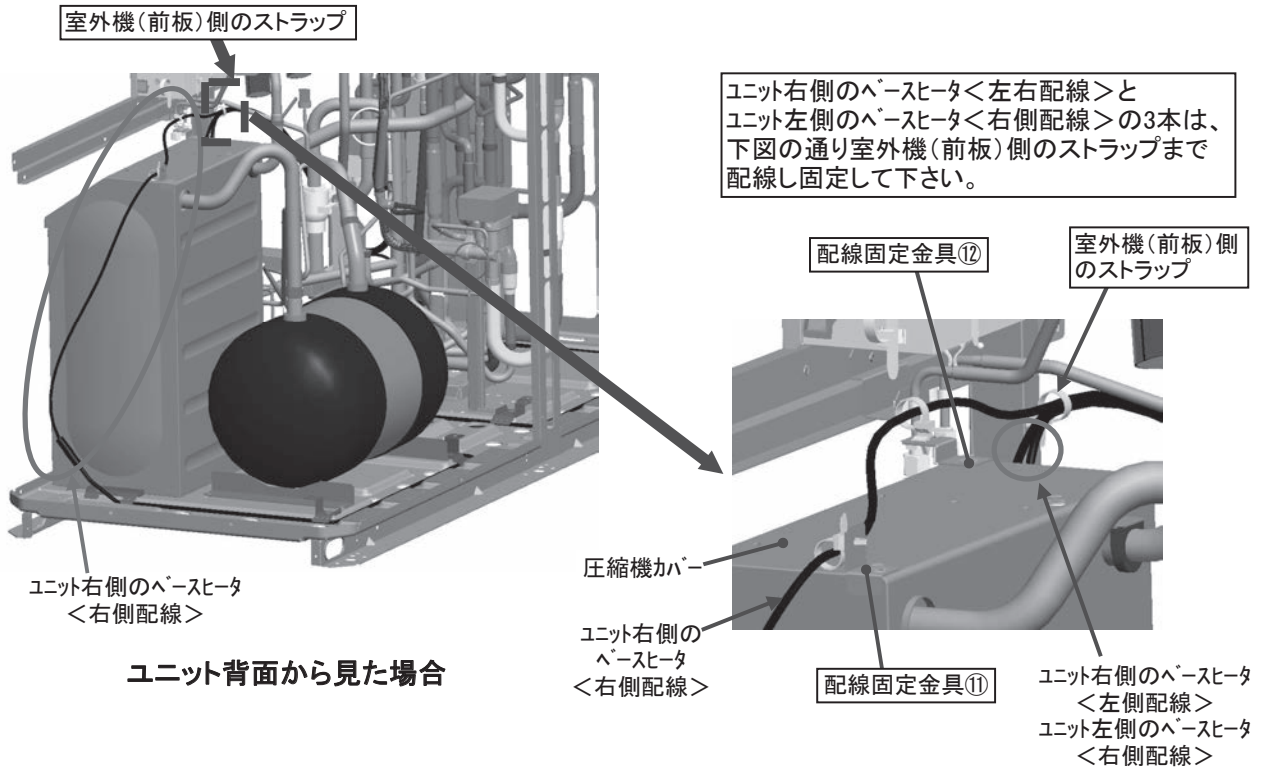
ユニット正面



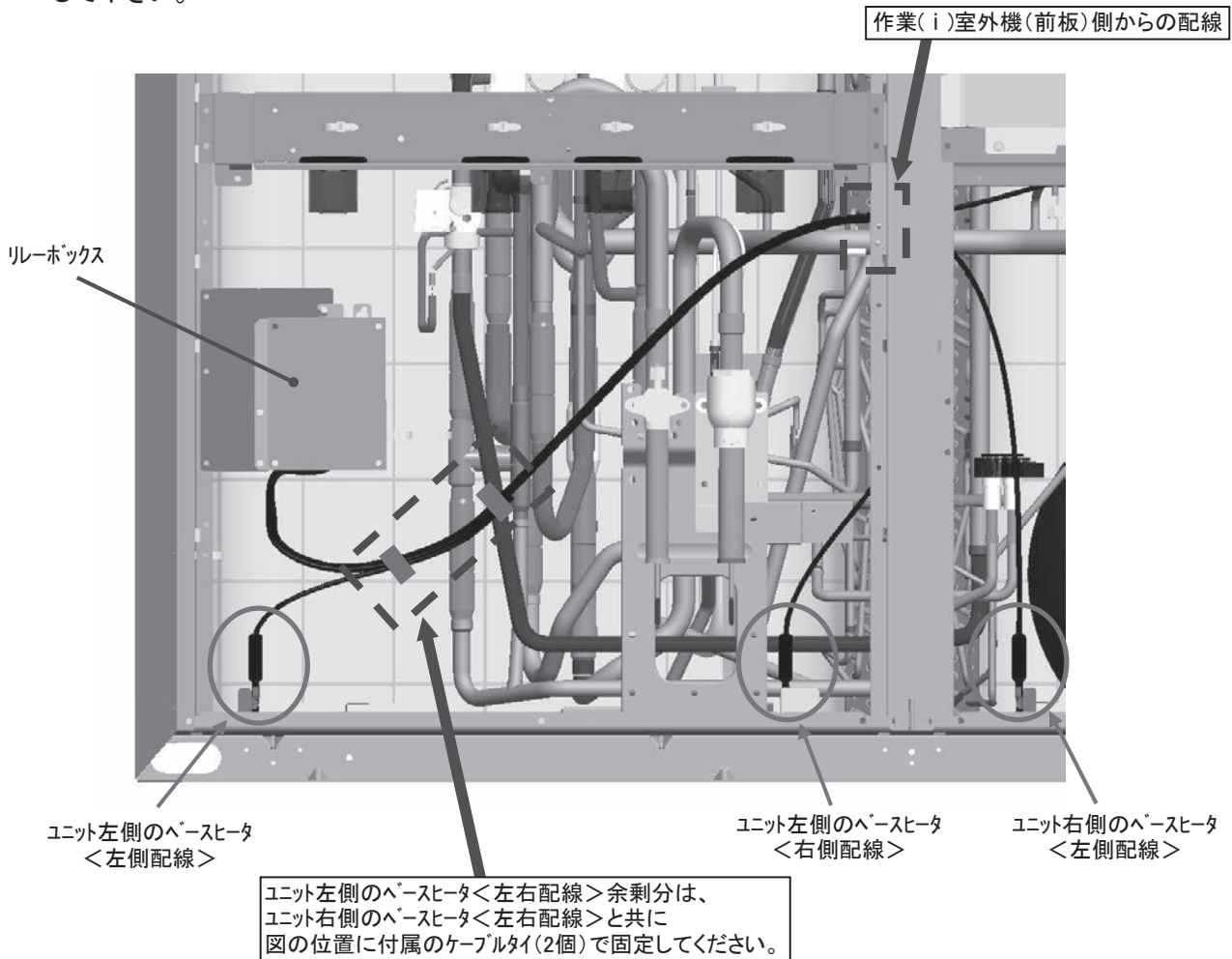
リレーボックス(底面側)

i) ユニット右側のベースヒータ<左右配線>とユニット左側のベースヒータ<右側配線>は、下図のように配線作業して下さい。





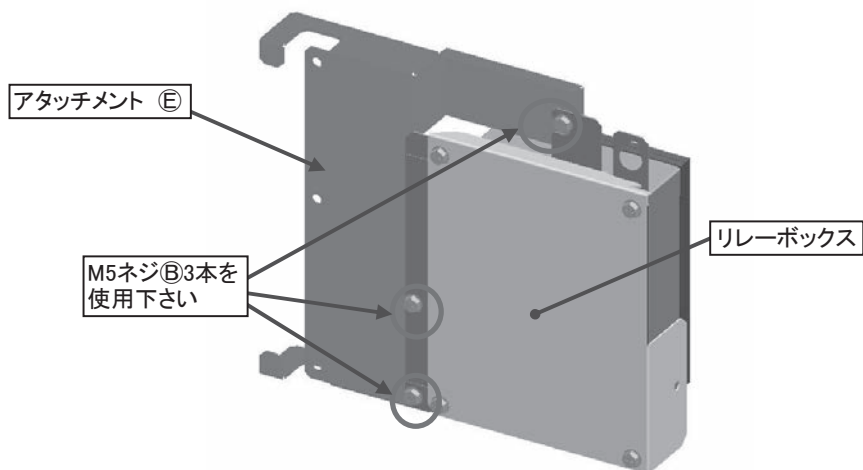
ii) ユニット左側のベースヒータ配線と作業(i)室外機(前板)側からの配線は、下図のように配線作業して下さい。



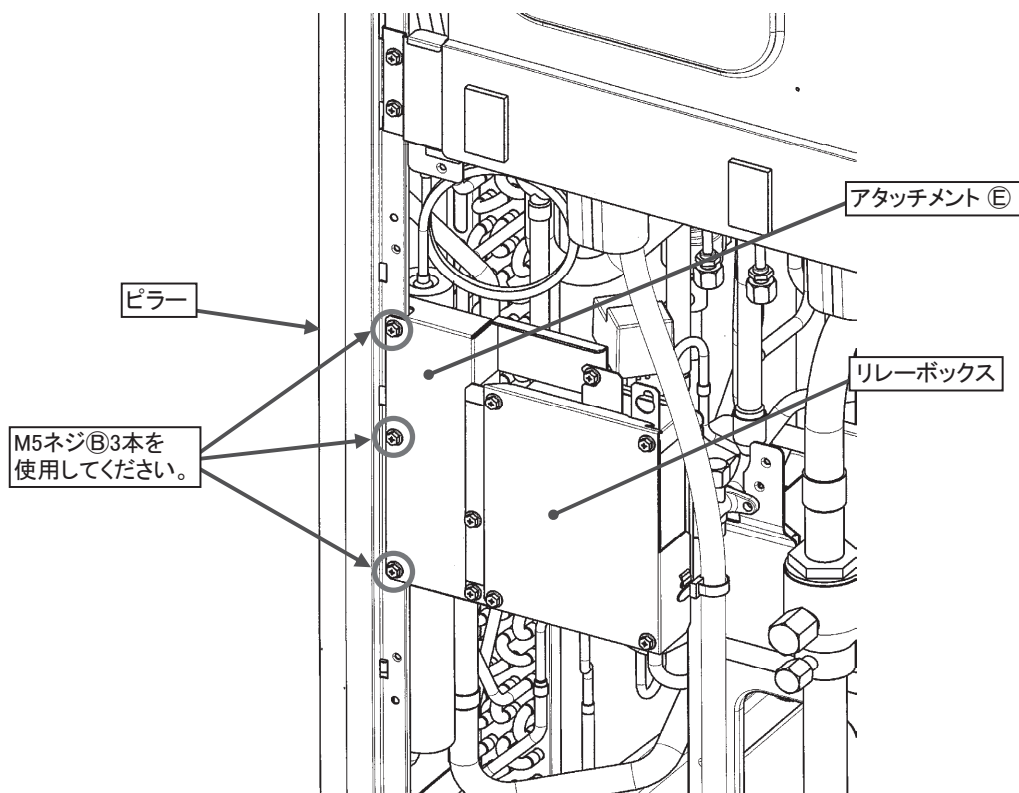
## 7.リレーボックス(PAC-KS20KTT)の配線作業

リレーボックスを取付ける前に取外した制御箱や配線を元に戻します。  
※配線コネクタは「カチッ」と音がするまで差し込み、確実に接続してください。

- リレーボックスにアタッチメント( E )を付属のネジM5( B )を使用して3箇所締結してください。

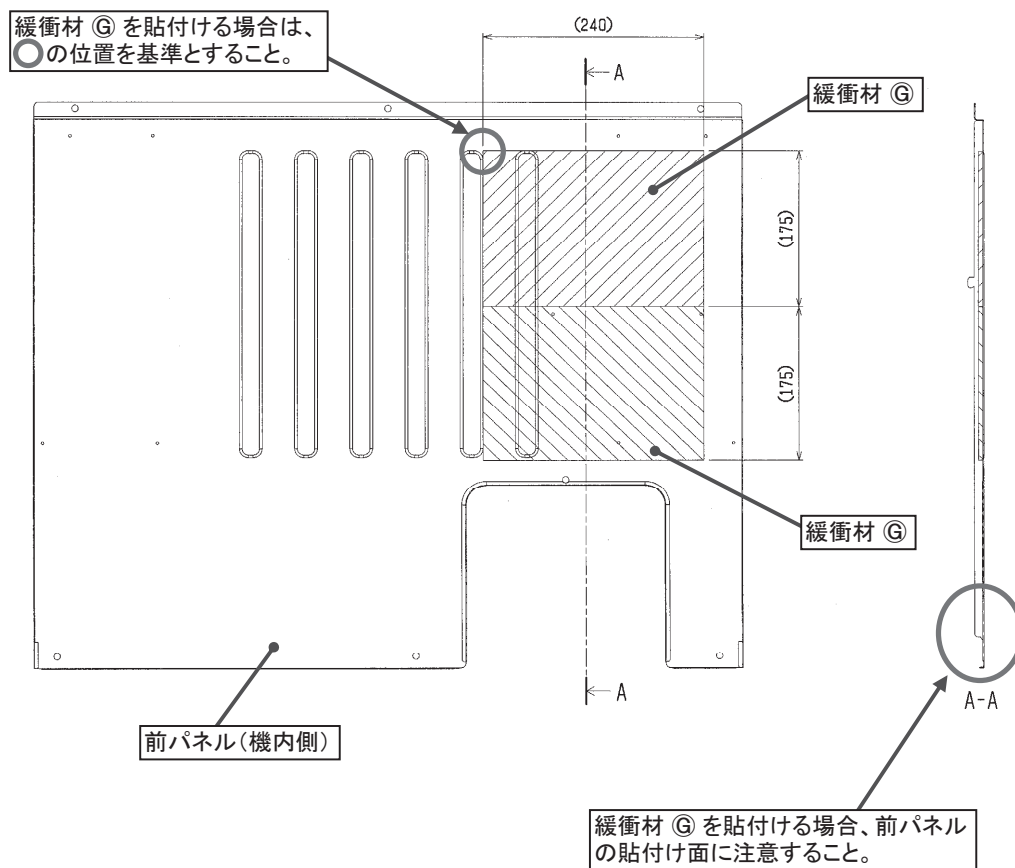


- リレーボックスを締結したアタッチメント( E )を、ユニット左側面のピラーへ付属のネジM5( B )を使用して3箇所締結してください。





- リレーボックスに取付けられたネジと前パネル緩衝防止の為、前パネル(機内側)に付属の緩衝材(㊸)を2枚貼付けてください。

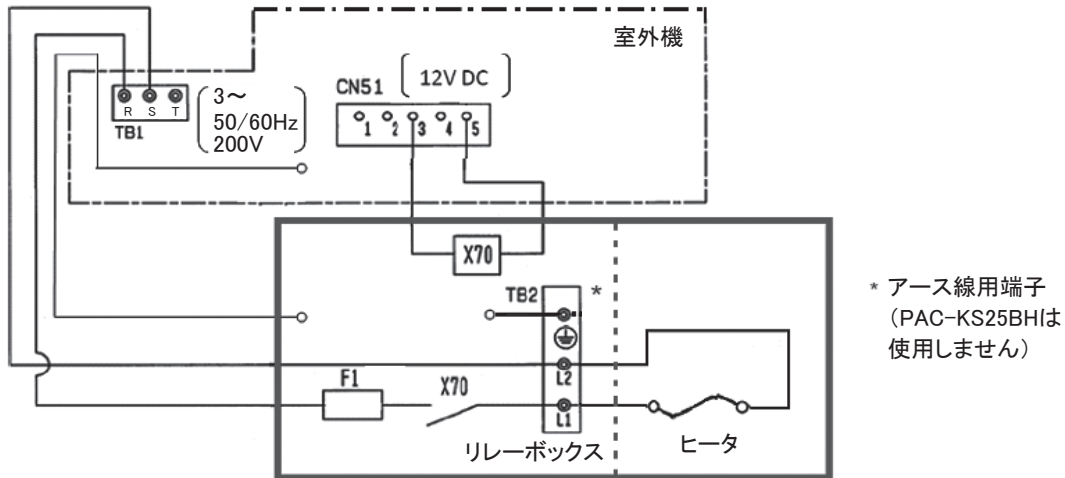


- 適切な位置にケーブル・リード線をしっかり固定してください。  
(下図の配線図を参照し、配線固定してください。)

## 電気配線図

### <PAC-KS25BH>

PAC-KS25BHには、アース線はありません。

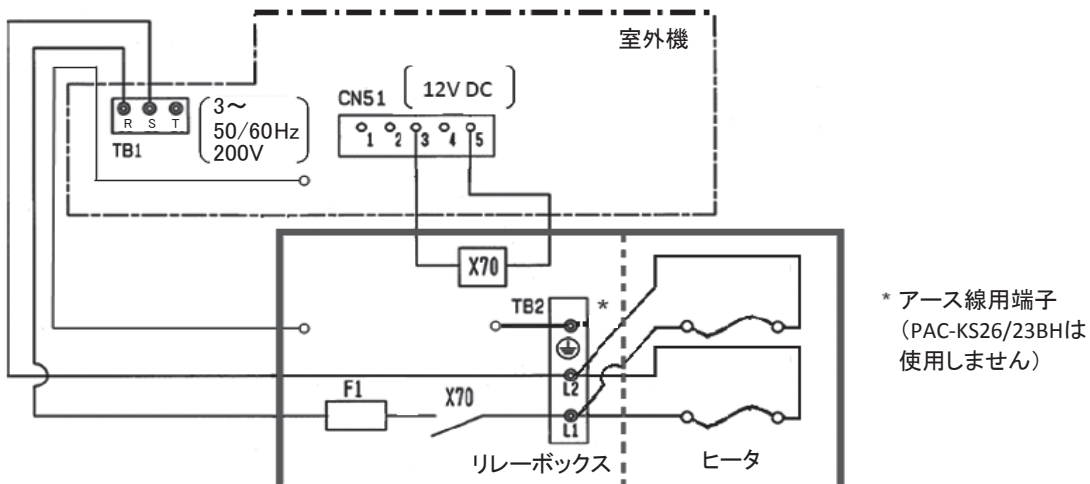


\* アース線用端子  
(PAC-KS25BHは  
使用しません)

記号	名称
TB1	端子台
TB2	端子台
CN51	コネクタ(室外機の制御基板上)
X70	リレー
F1	ヒューズ

### <PAC-KS26/23BH>

PAC-KS26/23BHには、アース線はありません。



\* アース線用端子  
(PAC-KS26/23BHは  
使用しません)

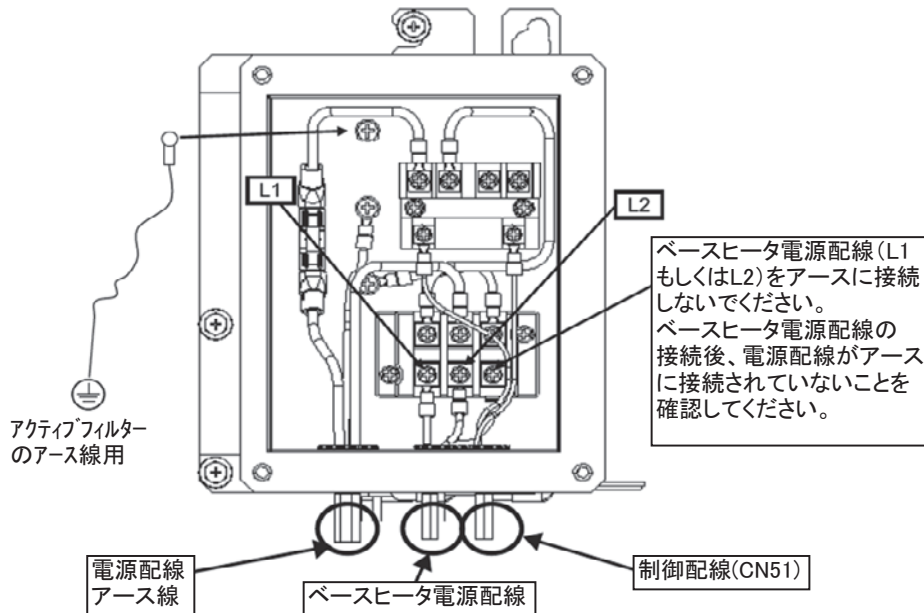
記号	名称
TB1	端子台
TB2	端子台
CN51	コネクタ(室外機の制御基板上)
X70	リレー
F1	ヒューズ

- a.PAC-KS25BHを据え付けるとき、リレーボックスのL1とL2端子にベースヒータの電源配線を接続してください。端子台の締め付けトルクは1.2N・mとしてください。  
PAC-KS26/23BHを据え付けるとき、リレーボックスのL1端子にベースヒータの電源配線の内、端子に白いラインのある配線を接続してください。L2には端子に白いラインのない配線を接続してください。  
リレーボックスの端子台のアース部にベースヒータの電源配線(L1もしくはL2)を決して接続しないでください。端子台の締め付けトルクは1.2N・mとしてください。

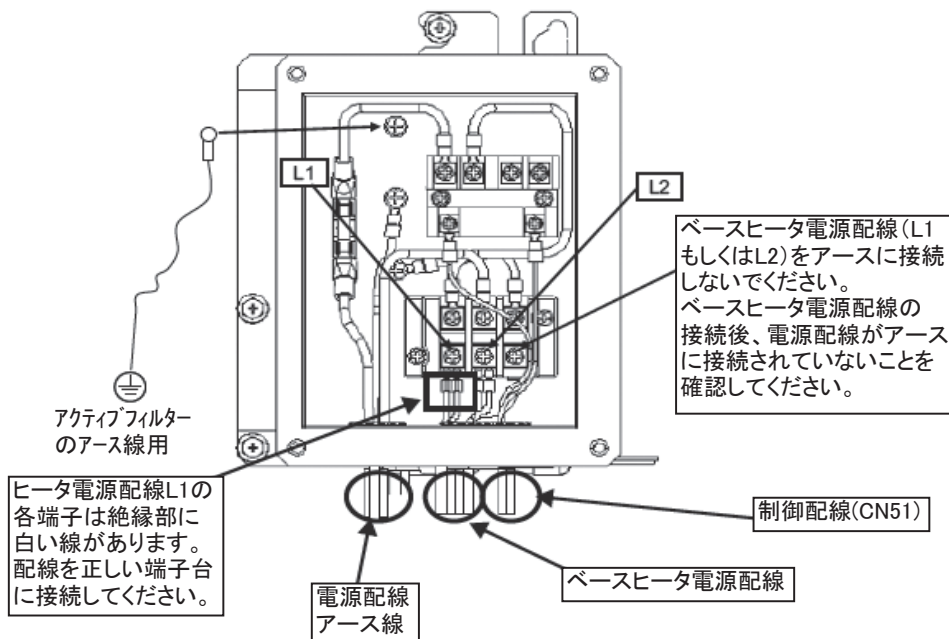
ベースヒータの電源配線とリレーボックスの配線接続用穴の水密をとるため、シール材(Ⓓ)と結束バンド(Ⓒ)を使用してください。

※シール材を巻いたヒータ配線の径が大きく、配線穴に通しづらい場合は水密性がとれる範囲で、シール材を適切な長さに切断してください。(シール材の適正寸法は4本挿入の場合70mmです。) 付属のクランプを用いてリレーボックスの配線穴にヒータ電源配線をしっかりと締め付けてください。アクティブフィルターが据付けられている場合、制御ボックスからアクティブフィルターのアース線を外し、下図のとおりねじ締めをしてください。

### <PAC-KS25BH>



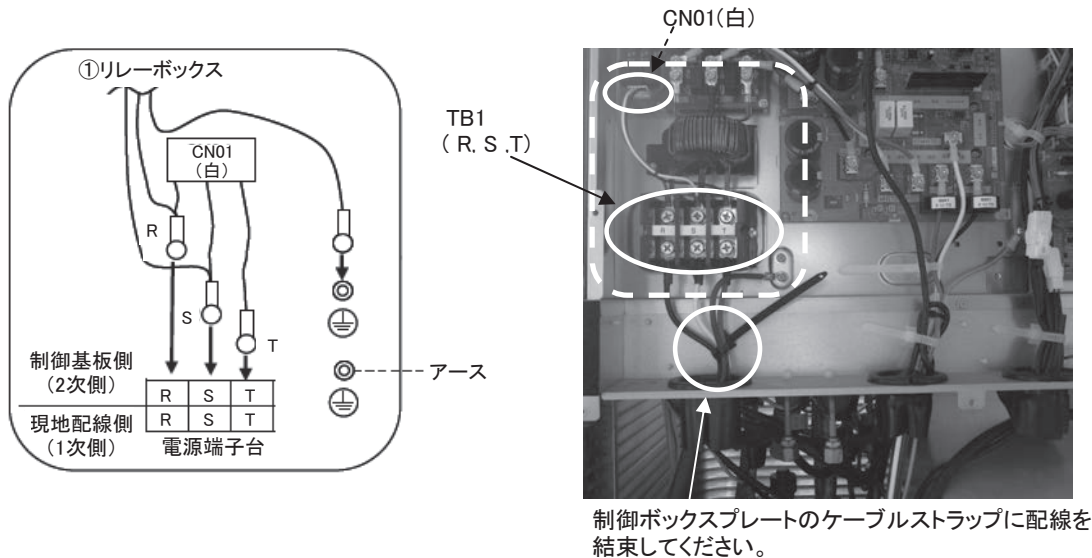
### <PAC-KS26/23BH>





c. 電源配線とアース線を配線ください。

- ・制御ボックスの中の丸端子のコネクタ<TB1-CN01>をCN01(白)コネクタおよび電源端子台の2次側から外してください。
- ・リレーボックスからの電源配線(R、S、T端子)を制御ボックスの中の電源端子台(2次側)のR、S、T相に現行配線と一緒に接続してください。端子台の締め付けトルクは6N・mとしてください。下図に配置されている<TB1-CN01>コネクタの代わりにリレーボックスのCN01配線を接続してください。
- ・制御ボックスの中のアース端子に①リレーボックスからのアース配線を取付けてください。
- ・制御ボックスにスノーガードが取り付けられている場合、配線接続前にスノーガードを結束している結束バンドを切断してください。配線接続後、付属の結束バンド(H)でスノーガードを結束してください。

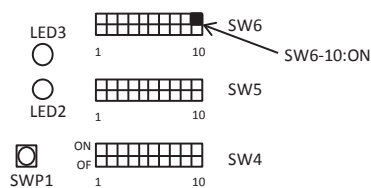


d. ベースヒータが正確に据付られており、電源配線が正確に配線されていることを確認してください。

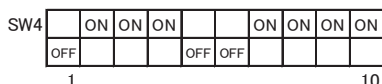
e. 配線完了後、配線を挟まないよう注意してカバーを設置し、前工程で取外したネジをカバーに取付けてください。

f. リレーボックスカバーに付属しているケーブルストラップに室外機電源配線を固定してください。

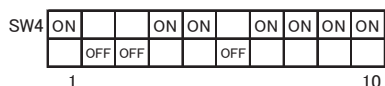
- g. ベースヒータを使用するため、室外機電源ONかつ圧縮機停止中に制御基板のDipSW4とSW6-10を下記1. 2. のように設定してください。その状態で、プッシュスイッチ(SWP1)を2秒以上押し続けてLEDランプを確認してください。但し、SW6がない機種はSW6の設定不要です。



1. SW6-10がONの状態、下図のようにSW4を設定し、プッシュスイッチ(SWP1)を2秒以上押し、LED3が点灯することを確認してください。



2. SW6-10がONの状態、右図のようにSW4を設定し、LED3が消灯していることを確認してください。点灯している場合は、プッシュスイッチ(SWP1)を2秒以上押し、LED3が消灯することを確認してください。



## 8. 再組立

部品の取付けは各部材を取り外した工程と逆の順番で行ってください。

## 9. 動作確認

ベースヒータの動作確認をお願いします。

1. ヒータ配線が正常な動作で切れていないかをテストで確認してください。
2. 適切な回路動作での出力電圧を確認してください。
  - ・ベースヒータの通電条件: 暖房、室外温度が4度以下、圧縮機が動作中
  - ※1上記条件とするため、コールドスプレーを使用して室外機温度センサ(TH7)を冷却してください。センサの冷却中、制御ボックスの基板の中、もしくはリレーボックスの中にコールドスプレーがかからないように制御ボックスパネルとリレーボックスパネルが閉まっていることを確認してください。

ご不明な点がございましたらお客様相談窓口（別添）にお問い合わせください。

## 三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

## 三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

〒640-8686 和歌山市手平6-5-66冷熱システム製作所(073)436-2111

WT06898X02